

令和7年度 シラバス				
科目名	スポーツ科学1			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期	2	講義
担当教員	今井 公一			
実務経験	-			
授業概要				
パーソナルトレーナーとして20年以上現場に立ち続けている私が感じた「知識が無いと良い指導は出来ないが、知識だけでは良い指導は出来ない」を基本に、指導者として最低限理解しなくてはならない知識を習得し、その知識を実践で活かせるように、可能な限り実践も交えながら進めていく。				
到達目標				
基本的な身体の動きを理解し、実際の指導現場の事例（トレーニングやストレッチの効果）も挙げながら生きた知識を得る。				
準備学習				
動きながら授業を進めますので、なるべく動きやすい服装で臨んでください				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、課題評価10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	適宜指示します			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	動きを診るときの3つの面	人間の動きを分析するために必要な 3 つの面について学ぶ
2	骨と関節の分類	骨と関節の種類を理解する
3	筋肉の種類と役割	筋肉の種類とその特徴と役割を理解する
4	トレーニングの原理、原則	トレーニングを実践するうえで必要な考え（原理・原則）を理解する
5	筋力トレーニングの種類（体幹）	体幹トレーニングの種類とその実践方法を理解する
6	筋力トレーニングの種類（上肢）	上肢の筋力トレーニングの種類とその実践方法を理解する
7	筋力トレーニングの種類（下肢）	下肢の筋力とトレーニングの種類とその実践方法を理解する
8	コーディネーショントレーニング	コーディネーショントレーニングの種類とその実践方法を理解する
9	ファンクショナルトレーニング	ファンクショナルトレーニングの考え方、実践方法を理解する
10	SAQトレーニング	SAQトレーニングの考え方、実践方法を理解する
11	スタティックストレッチ	スタティックストレッチの種類と実践方法を理解する
12	ダイナミックストレッチ	ダイナミックストレッチの種類とその実践方法を理解する
13	5大栄養素	5大栄養素の種類とその役割を理解する
14	救急法	心肺蘇生法、RICE処置について理解する
15	総括	総復習
16	総括	総括

令和7年度 シラバス

科目名	医療情報処理1			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期	2	講義
担当教員	八巻優介			
実務経験				

授業概要
現代の社会活動ではコンピュータの活用は不可欠であることを踏まえ、その基本的な操作を習得する。 特に本講義では、レポートおよびビジネス書類の作成を学ぶ。
到達目標
パソコンを用いて、次のように活用できるようになる。 ①レポートの作成 ②ビジネス文書の作成
準備学習
PCの設定やアップデート等、受講準備をしておく。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。

使用テキスト	
--------	--

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

授業計画		
回数	単元	内容
1	導入(授業概要、目標)、コンピュータの基本設定の確認	
2	Wordの基礎①	(起動と終了、キーボードの使い方)
3	Wordの基礎②	(文章入力、文字入力とファイル保存)、ファイル操作とフォルダ操作(OneDrive)
4	情報リテラシー	個人情報の重要性、知的財産の保護、情報モラル・情報漏洩のリスクについて
5	Wordの基礎③	(ページレイアウト、書式設定、印刷設定)
6	Wordの基礎④	(表の挿入、罫線の設定)
7	Wordの基礎のまとめ	(ビジネス文書の作成)
8	インターネット・メール	インターネット検索、メールの作成
9	Wordの応用①	(オブジェクト操作・図形の挿入・テキストボックスの挿入)
10	Wordの応用②	(画像の挿入、表の加工)
11	Wordの応用③	(図形内の文字入力)
12	Wordの応用④	(フォーマットの活用)
13	Wordの応用⑤	(文書デザイン、段組み)
14	Wordの活用まとめ①	(ビジネス文章の作成)
15	Wordの活用まとめ②	(ビジネス文章の作成)

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	スポーツ科学2				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	2年	前期	2	講義	1	コンディショニングとは	コンディショニングについて学ぶ
担当教員	今井 公一				2	パートナーストレッチの効果	パートナーストレッチの効果について学ぶ
実務経験	-				3	パートナーストレッチの基本	パートナーストレッチの基本テクニックについて学ぶ
授業概要					4	下肢のパートナーストレッチ	下肢のパートナーストレッチの種類と実践について学ぶ
「知識だけでは良い指導は出来ないが、知識がないと良い指導は出来ない」を基本に、指導者として最低限理解しなくてはならない知識を習得し、その知識を現場で活かせるように可能な限り実践も交えながら進めていく。					5	上肢のパートナーストレッチ	上肢のパートナーストレッチの種類と実践について学ぶ
					6	目的別パートナーストレッチ 1	目的に応じたストレッチについて学ぶ
					7	目的別パートナーストレッチ 2	目的に応じたストレッチについて学ぶ
					8	姿勢評価	姿勢評価の仕方について学ぶ
到達目標					9	動作評価	動作評価の仕方について学ぶ
理論だけではなく、実際の指導現場の事例（トレーニングやストレッチの効果）も挙げながら生きた知識を得る。トレーニングの種目、効果について説明し、実践、指導できるようになる。					10	コアスタビリティ	コアスタビリティについて学び実践する
					11	ムーブメントエクササイズ	ムーブメントエクササイズについて学び実践する
					12	ダイナミックコントロール	ダイナミックコントロールについて学び実践する
					13	心肺蘇生法	心肺蘇生法について学び実践する
準備学習					14	安全管理	安全管理について学ぶ
特に必要はありませんが、良いコンディションで授業に臨んでください。					15	総括	総復習
					16	総括	総括
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）							
使用テキスト	適宜指示する						

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	医療情報処理2				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	2年	0	2	講義	1	導入(授業概要、授業目標)	PowerPointの操作説明(スライドと発表)
担当教員	八巻優介				2	PowerPoint1	(デザイン・文字入力・文字の拡大・縮小)
実務経験					3	PowerPoint2	(図の挿入・図の着色)
					4	PowerPoint3	(アニメーション・画面切り替え)
					5	PowerPoint4	(写真の挿入・アプリでの加工)
					6	PowerPoint5	(スライド資料作り)
					7	PowerPoint6	(動画化)
					8	PowerPointまとめ	プレゼンテーション発表
					9	Excelの基礎1	(起動と終了、セルとシート・データの入力と削除)
					10	Excelの基礎2	(データの移動・コピー、数式の入力、基本的な表計算)
					11	Excelの基礎3	(関数の取り扱い、書式設定、オートフィル)
					12	Excelの基礎4	(関数の活用とデータの集計、これまでのまとめ)
					13	Excelの応用	(データ検索・置換・並び替え・フィルター機能の活用)
					14	Excelの応用2	(サンプルデータを利用した集計作業)
					15	Excelの実習	(総合演習)
						</	



令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	運動指導実践				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	3年	前期	2	講義	1	ホースセラピーの意義	生涯教育におけるホースセラピーの意義 担当：岡田
担当教員	局 博一、岡田 龍樹、兼子 樹廣、石井 孝弘、川嶋 舟、角居 勝彦、鳥山 淳一、平賀 篤、昇 寛				2	馬術・馬具の知識	馬術・馬具の知識（用語など）、馬の調教 担当：角居
実務経験					3	ホースセラピーとは何か①	ホースセラピーとは何か 1（安産管理等） 担当：川嶋
					4	ホースセラピーとは何か②	ホースセラピーとは何か 2（馬介在療法・馬介在活動等） 担当：石井
					5	法令と制度	法令と制度（動物飼養管理基準、動物愛護の歴史・法・実際） 担当：川嶋
					6	動物の管理	動物（馬）の福祉、健康な動物の管理 担当：角居
					7	馬学の基礎①	馬学の基礎 1（外貌・解剖学・病理学） 担当：兼子
					8	馬学の基礎②	馬学の基礎 2（行動特性・運動科学） 担当：局
					9	馬の世話①	馬の世話 1（ブラッシング・馬房掃除等） 担当：角居
					10	馬の歴史	馬（家畜、伴侶動物）の歴史、馬の品種・進化 担当：川嶋
					11	ヒトの解剖学・運動学	ヒトの解剖学・運動学 担当：昇
					12	ホースセラピーの実際	ホースセラピーの実際（放課後デイサービスを事例として） 担当：鳥山
					13	馬の世話②	馬の世話 2（乗馬体験など） 担当：角居
					14	リハビリテーションの基礎	リハビリテーションの基礎 担当：石井
					15	総括	総復習 担当：昇
					16		

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	リハビリテーション実践				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	3年	後期	2	講義	1	リハビリテーションとは	リハビリテーションの理念・障害モデル
担当教員	渡辺 長				2	障害分類	障害の捉え方
実務経験	医療機関等において、理学療法士としての実務経験を有する。				3	医学的リハビリテーションとチーム医療	医療における各時期のリハビリテーションとチーム医療
授業概要					4	評価項目①	筋力増強訓練と筋収縮様式
リハビリテーションの在り方は機能的アプローチに留まらず、身体的・精神的・社会的にあるべき状態への回復を目指すことにある。本科目では、柔道整復師の観点から必要なリハビリテーションの概念、知識及び技術の習得を目指すと共に、柔道整復師に期待される役割をアクティブラーニングを取り入れて学習する。					5	評価項目②	関節可動域訓練
到達目標					6	物理療法	リハビリテーションにおける治療（物理療法）
・リハビリテーションの本義的観点から患者アプローチを再考できる視点を身に付ける。 ・柔道整復師(国家試験)に求められるリハビリテーションの要素を体系的に理解する。					7	脳卒中①	脳卒中のリハビリテーション病態と分類
準備学習					8	脳卒中②	脳卒中のリハビリテーション失語とADL
予習：各回のテーマについて事前に教科書や信頼のおけるウェブサイトを目を通しておくこと。 復習：学習した内容について知識の整理と定着を図ること。疑問点などがあれば担当教員に相談すること。					9	義肢切断のリハビリテーション①	切断種類と適応義肢
成績評価					10	義肢切断のリハビリテーション②	義肢切断者に対するリハビリテーション
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。					11	補装具とリハビリテーション①	疾患と補装具の適応
使用テキスト					12	補装具とリハビリテーション②	補装具を用いたリハビリテーション
・三上真弘, リハビリテーション医学改訂第4版, 公益社団法人全国柔道整復学校協会監修。					13	小児リハビリテーション	小児疾患とリハビリテーション
					14	循環器系リハビリテーション	呼吸・循環器疾患のリハビリテーション
					15	総括	総復習

令和7年度 シラバス				
科目名	解剖学Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	後期	2	講義
担当教員	平賀 篤			
実務経験	医療機関等において、理学療法士としての実務経験を有する。			
授業概要				
解剖学が医療従事者になるための学習全体の中でどのような位置づけにあるかを説明する。 そのうえで生命の基本構造である細胞・組織・器官の形態的特徴から始め、無意識下で生命を維持するための内臓である心臓、血管系、呼吸器系、消化器系について、位置、形態と構造の特徴、血管分布などについて理解を進める。				
到達目標				
解剖学の必要性が理解できる。 臓器や器官の構造がイメージできる。 組織間の相互的役割や関係性を説明できる。				
準備学習				
・教科書の読解：教科書指定された書籍を読み、わからない単語を事前に調べる。 ・関連する国家試験過去問題を確認し、あらかじめ必要となりそうな知識内容をイメージする。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修、解剖学 改訂第2版、医歯薬出版株式会社			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	人体解剖学概要1	解剖学の歴史・分類、細胞の構造と機能
2	人体解剖学概要2	組織と発生
3	脈管系1	循環経路と血管の種類、心臓の構造
4	脈管系2	動脈系1：大動脈、頭頸部、胸腔、腹腔
5	脈管系3	動脈系2：骨盤部、上肢、下肢
6	脈管系4	静脈系1：大静脈、門脈
7	脈管系5	静脈系2：骨盤、胎児循環、リンパ系
8	呼吸器系1	呼吸器の働きと構成、上気道
9	呼吸器系2	下気道と肺
10	消化器系1	消化器の働きと構成、咽頭と食道
11	消化器系2	胃と腸
12	消化器系3	肝臓と胆道
13	消化器系4	脾臓と腹膜
14	試験前対策	全体的な復習1
15	試験前対策	全体的な復習2
16	総括	総復習

令和7年度 シラバス				
科目名	解剖学Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期	3	講義
担当教員	平賀 篤			
実務経験	医療機関等において、理学療法士としての実務経験を有する。			
授業概要				
解剖学Ⅰに引き続き人体の各組織についての位置や形態、構造の特徴についての理解を深める。解剖学Ⅰでまだ触れていない内臓系、内分泌系、中枢・末梢神経系、生殖器系を中心に学び、人体の構造を網羅することが可能となる。				
到達目標				
臓器や器官の位置と構造が理解できる。 組織間の相互的役割や関係性を説明できる。				
準備学習				
・教科書の読解：教科書指定された書籍を読み、わからない単語を事前に調べる。 ・関連する国家試験過去問題を確認し、あらかじめ必要となりそうな知識内容をイメージする。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修、解剖学 改訂第2版、医歯薬出版株式会社			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	脈管系の復習	心臓、動脈、静脈、リンパ管の整理
2	消化器・呼吸器系の復習	口～大腸と消化に関わる臓器、呼吸に関する整理
3	泌尿器系	腎臓～尿道
4	内分泌系1	内分泌の概要と機能、精巣と卵巣
5	内分泌系2	具体的な内分泌器
6	神経系1	神経系の基礎と特徴、神経組織
7	神経系2	中枢神経系の区分と脳室、脳脊髄液
8	神経系3	大脳～脳幹
9	神経系4	脊髄
10	神経系5	脳神経
11	神経系6	脊髄神経と自律神経系
12	感覚器系1	感覚の概要と表在感覚
13	感覚器系2	深部感覚、視覚
14	感覚器系3	聴覚、味覚
15	生殖器系1	生殖器の概要と男性生殖器
16	生殖器系2	女性生殖器
17	体表解剖1	体表に関わる区分と骨格系
18	体表解剖2	筋系1
19	体表解剖3	筋系2
20	体表解剖4	脈管系と感覚系

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

[illegible][illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	生理学 I			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	後期	2	講義
担当教員	菅沼 眞澄			
実務経験	-			
授業概要				
人体内で健康状態を保つために行っている各器官の働きについて、無意識下の自律的機能について学ぶ。 具体的には高校の生物学で勉強した細胞の構造から始まり、血液の組成や役割、循環、呼吸、消化と吸収について解説する。				
到達目標				
ヒトが生物として生きるしくみを細胞レベルから始まり、内臓の働きを説明できるようになることを目的とする。				
準備学習				
次の講義について教科書の該当するページを読んでおく。わかりにくい箇所があれば質問できるように準備する。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	生理学 改訂第4版 全国柔道整復学会協会監修 医歯薬出版株式会社			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	生理学とは？ ホメオスタシス	生理学で学ぶこと，体液
2	血液 1	血液の組成、血漿の成分と役割，血液細胞
3	血液 2	凝固，血液型，免疫
4	循環 1	循環経路，心臓の構造と働き
5	循環 2	心電図と心周期
6	循環 3	血管の種類と役割，血圧調節
7	呼吸 1	呼吸器の特徴，換気
8	呼吸 2	ガス交換，ガス運搬，呼吸の調節
9	消化と吸収 1	消化器の種類と消化の過程
10	消化と吸収 2	各消化器の働き，消化の調節
11	消化と吸収 3	肝臓・胆嚢・膵臓の働き，栄養素の吸収
12	栄養と代謝 1	栄養素の種類と構造，エネルギー産生
13	栄養と代謝 2	各栄養とエネルギー代謝
14	総復習	生理学I全体について復習 1
15	総括	生理学I全体について復習 2

令和7年度 シラバス				
科目名	生理学Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期	3	講義
担当教員	菅沼眞澄			
実務経験	-			
授業概要				
1年次の生理学Iに引き続きヒトの生命現象のしくみを学ぶ。生理学IIでは生命維持機能の二大調節系である内分泌と神経系を学ぶ。さらに動物性機能としての筋肉や運動機能について理解する。生理学II終了時には教科書の生理学の内容をすべて網羅することになる。				
到達目標				
生物が示す生命現象のしくみについて、無意識下の内臓の働きおよび意識下の運動や感覚のしくみを理解する。解剖学の知識と合わせてヒトの体のはたらきを説明できるようになる。				
準備学習				
次の講義について教科書の該当するページを読んでおく。わかりにくい箇所があれば質問できるように準備する。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	生理学 改訂第4版 全国柔道整復学会協会監修 医歯薬出版株式会社			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	尿の生成 1	腎臓の役割、ネフロン、糸球体での濾過
2	尿の生成 2	尿細管の再吸収・分泌、排尿、尿量調節
3	内分泌 1	内分泌のしくみ、ホルモンの特性
4	内分泌 2	視床下部、下垂体、松果体、上皮小体
5	内分泌 3	副腎、膵臓、精巣、卵巣
6	生殖 1	生殖器の分化、男性生殖器系
7	生殖 2	女性生殖器、妊娠と分娩
8	骨	骨の構造・成長・リモデリング、血中カルシウム調節
9	体液	体液量調節、酸塩基平衡
10	神経 1	神経系の特徴、ニューロン、膜電位
11	神経 2	中枢神経系の働き、高次機能
12	神経 3	自律神経系
13	神経 4	体性神経系、伝導路
14	筋肉 1	筋肉の種類、骨格筋の特徴
15	筋肉 2	筋収縮・弛緩のエネルギー、筋線維の種類
16	運動 1	運動の調節、伝導路、運動反射
17	運動 2	誘発筋電図、脳幹による運動調節、高次運動機能調節
18	感覚 1	感覚機能の特性、視覚
19	感覚 2	その他の特殊感覚、体性感覚
20	体温	体温の分布・調節

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

[illegible][illegible]



令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	人体の構造と機能の変化				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	2年	後期	2	講義	1	高齢者の生理学的特徴1	細胞・組織の加齢現象, 神経系の変化
担当教員	菅沼眞澄				2	高齢者の生理学的特徴2	運動器系の変化(1)骨格筋
実務経験	-				3	高齢者の生理学的特徴 3	運動器系の変化(2) 骨
授業概要							
これまで生理学で学んできた健康成人の身体機能は、発達過程や加齢により特徴的な変化をたどる。一般の健康成人の生理的機能と比較しながら、神経系・運動器・感覚器・循環器などの加齢による退行性変化および発生・発達過程の変化について学ぶ。また高齢者の加齢性変化に伴う特徴的な障害や薬の影響を理解する。							
到達目標							
健康成人の人体の機能全般について復習し、さらに加齢や発達による特徴的な変化についても説明できるようにすることを目標とする。							
準備学習							
教科書の該当ページを読み、疑問に思うことや興味を持ったことについてまとめておく。							
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。							
使用テキスト	生理学 改訂第4版 全国柔道整復学会協会監修 医歯薬出版株式会社						


令和7年度 シラバス					
科目名	運動学				
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	
柔道整復学科	2年	後期	3	講義	
担当教員	高橋将				
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。				
授業概要					
運動に関する身体の構造と機能の関係や原理・理論を理解し、運動学の基礎知識を身につけることを目的とする。これらの内容(多くが前半にある)は予習を、後半の内容は復習をしっかりと行い、国家試験の過去の問題演習などを通じて、各章の押さえるべき基本的な内容を説明できるレベルになることを期待する。					
到達目標					
教科書で紹介されている運動学の基礎知識(身体運動と力学、運動器の構造と理解、神経の構造と機能、運動感覚、反射と随意運動、四肢と体幹の運動、姿勢、歩行、運動発達、運動学習等)を理解すること。また、運動学の知識を応用させることができるようになることを目標とする。					
準備学習					
初めて習う内容は予習が難しいと思われるので、まずは復習をしっかりと行ってほしい。また、これらを履修した際に関連科目も併せて復習することで理解度が増し、理解が深まることを期待する。					
成績評価					
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。(小数点以下切り捨て)					
使用テキスト	運動学改訂第3版(医歯薬出版株式会社) 講義内容をまとめたプリントを配布するほか、自学の際に参考となる資料を講義中に適宜紹介する。				

回数	単元
1	運動学の目的、運動の表し方
2	身体運動と力学:前半(身体運動に関する力)
3	身体運動と力学:後半(運動の法則)
4	運動器の構造と機能
5	神経の構造と機能
6	運動感覚
7	反射と随意運動:前半(反射)
8	反射と随意運動:後半(連合運動と共同運動以降)
9	姿勢:後半(立位姿勢の制御以降)
10	歩行:前半(歩行の運動力学的分析まで)
11	歩行:後半
12	運動発達:前半(全身運動まで)
13	上肢関節機能と筋①
14	上肢関節機能と筋②
15	上肢関節機能と筋③
16	上肢関節機能と筋④
17	下肢関節機能と筋①
18	下肢関節機能と筋②
19	下肢関節機能と筋③
20	体幹関節機能と筋①

令和6年度 シラバス

[illegible][illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	病理学概論			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	後期	2	講義
担当教員	渡邊義隆			
実務経験	歯科医院等において、歯科医師としての実務経験を有する。			
授業概要				
病理学を初めて履修する人を対象に、基本的な内容を講義する。病気は身体の「異常時の状態」であり、「正常時の状態」を学ぶ解剖・生理学などの他基礎医学科目がベースとなるため、これらの科目の良い予習・復習にもなる。この講義を契機として、多くの病理学の知識を習得されることを期待します。				
到達目標				
①体内での様々な障害つまり「なぜ病気になるのか」その原因を覚えてほしい（主に前半）。 ②炎症、アレルギー、腫瘍など「病気になると体内で起こる変化」を理解してほしい（主に後半）。 ③上記①、②を踏まえて多くの病気を覚えてほしい。				
準備学習				
インターネットに慣れ親しんでいる方も多いと思います。昨今はAIによる解説があるものも少なくない。それを利用して「講義前に興味のある教科書の重要用語を調べる」「講義後に難しかった内容を調べる」等をおすすめしたい。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	病理学概論 第3版 （全国柔道整復学校協会監修、関根一郎著 医歯薬出版株式会社）			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション、第1章、第2章	「病理学の基礎」および「疾病の一般」
2	第3章 細胞傷害前半	細胞傷害の定義、萎縮、変性、代謝障害の色素代謝異常まで
3	第3章 細胞傷害後半	鉄代謝異常～糖尿病、老化、壊死、死（全身死）
4	第4章 循環障害前半	血液の循環障害の血栓症まで
5	第4章 循環障害後半	血液の循環障害の塞栓症と梗塞、リンパ液の循環障害、脱水症、高血圧
6	第5章 進行性病変	進行性病変の定義、肥大と過形成、再生と化生、創傷治癒、移植
7	第6章 炎症前半	炎症の一般（炎症の原因と形態学的変化）
8	第6章 炎症後半	炎症の分類（炎症の経過による分類と形態による分類）
9	第7章 免疫異常、アレルギー	免疫の仕組みと免疫不全、自己免疫疾患、アレルギー
10	第8章 腫瘍①	腫瘍の概念（腫瘍の定義から発癌の原因まで）
11	第8章 腫瘍②	腫瘍の概念（癌の診断と治療）、腫瘍の分類のうち「良性腫瘍」
12	第8章 腫瘍③	腫瘍の分類のうち「悪性腫瘍」と主要な癌（部位別）
13	第9章 先天性異常	先天性異常の総論、奇形の原因と成立の時期、奇形の種類
14	第10章 病因前半	内因および外因の栄養障害と物理的外因の「温度」まで
15	第10章 病因後半	外因の物理的外因「放射線」と化学的外因、生物学的外因

令和7年度 シラバス				
科目名	一般臨床医学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	0	3	講義
担当教員	平賀篤、渡邊修司			
実務経験	-			
授業概要				
柔道整復師を目指す上で必要となる診察の基本と内科疾患や神経疾患、運動器疾患など多彩な疾患概念を学び、将来臨床現場で注意を払わなければならない症状や所見の理解を深める。				
到達目標				
診察から得られる兆候と病態を関連付けることができる。検査異常と疾患を関連付けることができる。内部障害・神経障害・感染症など主な疾患を理解できる。				
準備学習				
・教科書の読解：教科書指定された書籍を読み、わからない単語を事前に調べる。 ・関連する国家試験過去問題を確認し、あらかじめ必要となりそうな知識内容をイメージする。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修、一般臨床医学 改訂第3版、南江堂			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	診察-医療面接-視診	診察の概念理解と必要な診察技能である医療面接と視診の注意点把握
2	打診・聴診・触診	診察に必要な診察技能である打診や聴診、触診の部位別理解
3	生命兆候	体温や血圧、呼吸の見方
4	感覚検査・反射検査	感覚検査と反射検査の種類の理解と実施方法
5	代表的な臨床症状：発熱・出血傾向	発熱と出血の病態生理と具体例
6	代表的な臨床症状：リンパ節腫脹-やせ	代表的症状であるリンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼや肥満などの病態生理
7	検査法：生理機能検査	心電図、脳波、筋電図検査の基本と臨床応用
8	検体検査、前半まとめ	検体の概念と臨床応用
9	呼吸器疾患	呼吸器に関する主要徴候と具体的疾患
10	循環器疾患	循環器に関する主要徴候と具体的疾患
11	消化器疾患総論	消化器に関する主要徴候とそのメカニズム
12	消化器疾患各論	消化器に関する具体的疾患
13	代謝疾患	呼吸器に関する主要徴候と具体的疾患
14	内分泌疾患	内分泌疾患に関する主要徴候と具体的疾患
15	血液・造血管器疾患	血液・造血管器に関する主要徴候と具体的疾患
16	腎・尿路疾患総論	腎・尿路疾患に関する主要徴候とそのメカニズム
17	腎・尿路疾患各論	腎・尿路疾患に関する具体的疾患
18	神経疾患総論	神経疾患に関する主要徴候とそのメカニズム
19	神経疾患各論	神経疾患に関する具体的疾患
20	感染症総論	感染症に関する主要徴候とそのメカニズム

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

[illegible][illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	整形外科学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	後期	2	講義
担当教員	志村 圭太			
実務経験	医療機関等において、理学療法士としての実務経験を有する。			
授業概要				
本科目では、柔道整復師が日常業務で遭遇する頻度の多い運動器疾患から若年者のスポーツ傷害まで代表的な整形外科疾患を網羅的に学修する。履修にあたっては運動器の基礎を理解していることが重要であり、これまで学修した運動学、解剖学、生理学を十分に復習しておくことが望ましい。講義を中心に授業を展開する。				
到達目標				
1.整形外科で用いられる診察法、検査法、治療法の概要を説明できる 2.骨関節損傷の概要を説明できる 3.代表的な整形外科疾患（第3回-5回；疾患別各論）の概要を説明できる 4.四肢と体幹の主要な運動器疾患の病態、診断、治療の概要を説明できる				
準備学習				
解剖学、運動学、生理学の特に運動器領域を全般的に復習して臨むこと。 小テストを振り返り不正解問題を中心に講義資料をと教科書をもとに復習しておくこと。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	教科書：全国柔道整復学校協会監修.整形外科学.改訂第4版.南江堂.2017 毎回講義資料を配布する。 参考書ならびに文献は授業内で適宜紹介する。			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	運動器の基礎知識、整形外科診察法	骨関節、筋、靱帯、腱、運動器の科学、姿勢、形態測定、跛行、関節可動域、筋力、感覚、反射
2	整形外科検査法、整形外科的治療法	画像検査、骨密度測定、電気生理学的検査、関節鏡検査、超音波検査、保存療法、観血的治療
3	骨関節損傷総論、スポーツ整形外科総論	骨折総論、関節の損傷、スポーツ整形外科の概要
4	リハビリテーション総論、疾患別各論	リハビリテーションの概要、感染性疾患、腫瘍、非感染性軟部・骨関節疾患
5	疾患別各論	全身の骨・軟部疾患、骨端症
6	疾患別各論	四肢循環障害、神経・筋疾患
7	総括（中間）	第1回から6回のレビュー 問題演習 国家試験対策
8	身体部位別各論	頸椎、胸椎、腰椎の整形外科疾患
9	身体部位別各論	肩、肩甲帯の整形外科疾患
10	身体部位別各論	上腕、肘関節の整形外科疾患
11	身体部位別各論	手関節、手指の整形外科疾患
12	身体部位別各論	骨盤、股関節の整形外科疾患
13	身体部位別各論	大腿骨、膝関節の整形外科疾患
14	身体部位別各論	下腿、足関節、足趾の整形外科疾患
15	総括（最終）	第8回から第14回のレビュー 問題演習 国家試験対策

令和7年度 シラバス				
科目名	外科学概論			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期	2	講義
担当教員	渡邊修司			
実務経験	医療機関等において、理学療法士としての実務経験を有する。			

使用テキスト	外科学概論 改訂第4版 南江堂
--------	-----------------

授業計画		
回数	単元	内容
1	1章：損傷	外傷の種類、創傷治癒、骨折・軟部組織損傷の管理
2	2章：炎症と外科感染症	炎症の機序、創感染、壊死性筋膜炎、抗菌薬治療
3	3章：腫瘍	良性・悪性腫瘍の特徴、診断・治療の基本原則
4	4章：ショック	出血性・敗血症性・神経原性ショックの機序と対策
5	5章：輸血、輸液	血液製剤の種類、輸血反応、輸液管理の基本
6	6章：消毒と滅菌 7章：手術	感染予防、滅菌・消毒の方法、無菌操作の原則、周術期管理、手術の基本手技、合併症対策
7	8章：麻酔	全身・局所麻酔の種類、麻酔管理、合併症対策
8	9章：移植と免疫	臓器移植の適応、拒絶反応、免疫抑制療法
9	10章：出血と止血	出血の分類、止血法、凝固異常の管理
10	11章：心肺蘇生法	BLS・ACLSの手順、心停止の初期対応
11	12章：脳神経外科疾患 13章：甲状腺・頸部疾患	脳血管障害、頭部外傷、神経疾患の治療、甲状腺腫瘍、甲状腺機能異常、頸部腫瘍
12	14章：胸壁・呼吸器疾患 15章：心臓・脈管疾患	気胸、肺炎、呼吸不全、胸壁腫瘍の診断と治療、狭心症、大動脈疾患、静脈疾患の治療
13	16章：乳腺疾患 17章：腹部外科疾患	乳癌の診断・治療、乳腺炎、良性腫瘍、消化器癌、ヘルニア、腹部救急疾患の治療
14	総括	各章の要点整理、解説
15	総括	総復習



令和7年度 シラバス				
科目名	リハビリテーション医学			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期	2	講義
担当教員	大塚博史			
実務経験	-			
授業概要				
医療技術の進歩で疾患の治癒率が向上する一方で、障害や社会的問題を抱える人々は増加している。本授業では、リハビリテーションの理念を学び、各種障害やリハビリテーションのアプローチについて理解する。さらに、障害者支援の重要性と倫理的責任について考察し、効果的な支援方法を習得する。				
到達目標				
リハビリテーション医学の授業目標は、臨床で必要とされる幅広い知識を習得し、実際の治療や診断に役立てることである。本授業では、学生がリハビリテーション医学における理論や実践方法を深く理解し、国家試験問題に対応できるだけでなく、現場で直面する様々なケースに柔軟に対応できる力を養うことを目指す。				
準備学習				
予習として、授業計画に示された教科書の範囲を熟読する。復習として、授業内容をノートにまとめるなどの確認作業を行う。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	1. 全国柔道整復学校協会監修 リハビリテーション医学 第4版 2. 配布資料			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	1 リハビリテーションの理念、 2 リハビリテーションの対象と障害者の実	リハビリテーションの理念とその対象、障害者の実態について学ぶ。これにより、障害者支援の重要性と具体的方法を理解する。
2	3 障害の階層とアプローチ	障害の階層構造とそれぞれに対するアプローチについて学ぶ。これにより、障害の多様性に対応方法を理解する。
3	4 リハビリテーション評価学	リハビリテーション評価学の基礎と応用方法を学ぶ。これにより、評価の重要性と具体的な評価手法を理解する。
4	5-1 リハビリテーション障害学（前半）	リハビリテーション障害学の基礎と応用について学ぶ。これにより、障害の種類とリハビリテーションのアプローチを理解する。
5	5-2 リハビリテーション障害学（後半）	リハビリテーション障害学の基礎と応用について学ぶ。これにより、障害の種類とリハビリテーションのアプローチを理解する。
6	5-3 リハビリテーション治療学	リハビリテーション治療学の基本理論と実践方法を学ぶ。これにより、治療技術とその応用方法を理解する。
7	6 リハビリテーション医学の関連職種	リハビリテーション医学に関わる多職種の役割と協働の重要性について学ぶ。これにより、効果的なチームアプローチを理解する。
8	7-1 リハビリテーション治療技術（理学療法）	リハビリテーション治療技術における理学療法の基礎理論と実践方法を学ぶ。これにより、理学療法の有効性と適用を理解する。
9	7-2 リハビリテーション治療技術（作業療法、言語聴覚療法）	リハビリテーション治療技術における作業療法と言語聴覚療法の基礎理論と実践方法を学ぶ。これにより、両療法の有効性と適用を理解する。
10	7-3 リハビリテーション治療技術（装具、義肢）	リハビリテーション治療技術における装具と義肢の基礎理論と実践方法を学ぶ。これにより、装具と義肢の役割と適用を理解する。
11	7-4 リハビリテーション治療技術（歩行補助具、車椅子、自助具）	リハビリテーション治療技術における歩行補助具、車椅子、自助具の基礎理論と実践方法を学ぶ。これにより、これらの補助具の役割と適用を理解する。
12	8-1 高齢者のリハビリテーション	高齢者のリハビリテーションの基本概念と実践方法について学ぶ。これにより、高齢者の特性を考慮した支援方法と効果的なアプローチを理解する。
13	8-2 パーキンソン病、 8-3 脳卒中（脳卒中の分類と特徴、	パーキンソン病の病態と治療法を学び、患者の生活の質向上を目指す。脳卒中の分類と特徴を学び、様々な脳卒中の原因について理解する。
14	8-4 脳卒中（脳卒中の障害、他）	脳卒中による障害やその特徴、リハビリテーション方法を学ぶ。これにより、患者の回復を支援するための実践的な知識を理解する。
15	総括	授業内容の総まとめを行う。これにより、重要ポイントを復習し、理解を深める。

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

[illegible][illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	柔道整復術の適応				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	3年	前期	2	講義	1	オリエンテーション	学習の進め方
担当教員	昇 寛、嶋田 裕司				2	柔道整復術の適否を考える①	損傷に類似した症状を示す疾患①（内臓疾患の投影を疑う疼痛、腰痛を伴う疾患）
実務経験	医療機関等において、理学療法士としての実務経験を有する。				3	柔道整復術の適否を考える②	損傷に類似した症状を示す疾患②（化膿性の炎症、軟部組織の圧迫損傷）
授業概要							
柔道整復術の適否の考えとして、損傷に類似した症状を示す疾患、内臓疾患、腰痛、化膿性の炎症、血流障害を伴う損傷、末梢神経損傷を伴う損傷、脱臼骨折、外出血を伴う損傷、病的骨折および脱臼、意識障害を伴う損傷、脊髄症状のある損傷、呼吸運動障害を伴う損傷、高エネルギー外傷を含めた柔道整復術の適応を学習する。							
到達目標							
1) 患者の病態を適正に把握するために、柔道整復師に求められる知識を習得する。 2) 柔道整復術の適否の考えとして、病態の説明ができる。 3) 病態をそのまま放置してしまった場合、その後起こりうる可能性のある事項が説明できる。							
準備学習							
1) 講義前の予習として、教科書を十分に読み、内容理解に努めること。 2) 講義中に説明したことは、ノートや教科書への書き込みをするなど復習できるように記録すること。 3) 講義後は、学習した範囲の復習を行い、覚えるまで十分に反復学習すること。							
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）							
使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修「医療の中の柔道整復」（南江堂、2019年） ISBN:978-4-524-24898-8						

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	衛生学・公衆衛生学				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	3年	通年	3	講義	1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	科目概要の説明と公衆衛生の理解
担当教員	平賀 篤				2	健康の概念	日本における健康の概念と指標、動態統計
実務経験	医療機関等において、理学療法士としての実務経験を有する。				3	疾病予防と健康管理	疾病と危険因子、予防に関する水準と対策
授業概要							
我が国の健康に関する課題は、1) 超高齢社会・少子高齢化社会と付随する生活習慣病、2) 公害・地球環境、3) 産業保健、4) 時代に対応した国際保健 など多岐にわたる。公衆衛生の基本的な知識と考え方を理解し、我が国の実際を理解する。							
到達目標							
人間と環境との関係性を現代科学的に理解できる。 「衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動」、「健康の概念」、「疾病予防と健康管理」、「感染症の予防」などを理解し説明できるようになる。							
準備学習							
・教科書の読解：教科書指定された書籍を読み、わからない単語を事前に調べる。 ・関連する国家試験過去問題を確認し、あらかじめ必要となりそうな知識内容をイメージする。							
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。							
使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修、衛生学・公衆衛生学 改訂第6版、南江堂						
					4	感染症予防①	感染症の種類とメカニズム
					5	感染症予防②	感染症予防の原則と具体的対策
					6	消毒	消毒のメカニズムと実際
					7	環境衛生①	環境問題の背景と物理的環境要因
					8	環境衛生②	科学的・生物的環境要因
					9	公害と地球環境	公害の歴史と現在の地球の状況
					10	生活環境	水、衣服、住居
					11	食品衛生活動	食品衛生と栄養問題
					12	母子保健	母子に関わる問題と行政対応
					13	学校保健	学校に関わる問題と行政対応
					14	産業保健①	産業保健の考え方と職業病
					15	産業保健②	産業分野の予防と対策
					16	成人保健と高齢者保健	成人と高齢者の健康変遷
					17	精神保健	精神に関わる問題と世論の変遷
					18	地域保健と国際保健	衛生学の国際的な動向
					19	衛生行政と保健医療制度①	衛生に関する行政動向
					20	衛生行政と保健医療制度②	保健医療制度の変遷と現状

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

[illegible][illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	関係法規			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期	2	講義
担当教員	中神 太一			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
柔道整復師という仕事をしていく上で、そのルールである柔道整復師法を知っておくことは当然のことである。また、医療人として柔道整復師法に限らず医療法、医師法、その他関係法規の知識も必要である。本授業ではこれらの法律に関して、国家試験に出題される項目を中心に教科書、配布資料を使用し説明していく。				
到達目標				
法の体系を学び、そこで出てくる様々な用語の意味を理解し、柔道整復師法およびその他関係法規について内容を理解し、そのうえで柔道整復師の業について適法に行うことができることを目的とする。また、国家試験については必修科目であるため80%以上の正答率を目指す。				
準備学習				
授業で勉強したことへの復習もかねて、定期試験前に自己学習できるようなノートづくりを心掛けたい				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 関係法規 2023年度版（授業計画欄のページは2022年度版を参照）			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	序論	法の意義
2	序論	法の体系～柔道整復に関する法規
3	序論	患者の権利～リスクマネジメント
4	柔道整復師法	柔道整復師法の目的～免許
5	柔道整復師法	免許～柔道整復師国家試験
6	柔道整復師法	業務
7	柔道整復師法	施術所～広告
8	柔道整復師法	復習
9	関係法規	医療従事者の資格法
10	関係法規	医療法
11	関係法規	社会福祉法規～社会保険関係法規
12	関係法規	個人情報の保護に関する法律
13	総復習	総復習
14	総復習	総復習
15	総復習	解説

令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

科目名	職業倫理			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	後期	1	講義
担当教員	中神太一			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
<p>柔道整復師とあると同時に医療従事者として働くために医療における職業倫理を理解し身につけておくことは、とりわけ昨今の時代の流れの中では必須条件である。この授業では医療業界においての職業倫理の変遷を理解し柔道整復師としての職業倫理を教科書、配布資料中心に説明していく。</p>
到達目標
<p>医療従事者および柔道整復師としての職業倫理を理解し、インフォームドコンセントなど患者中心の医療を自分自身の職業倫理観とし、当たり前のように実践できるようになる。また、国家試験においては出題数が増えている分野でもあるので確実に解けるような知識を身に着ける。</p>
準備学習
<p>配布プリント中心に復習をし授業内にやる小テストを確実に解けるように何度も見直し、理解しておくこと。</p>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）</p>

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理
--------	-----------------------------------

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	柔道Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期	1	演習
担当教員	水村麻輝			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
嘉納治五郎師範の歴史・柔道を表す言葉・礼節・受身・講道館投の形を修得を目的とし、学んでいく。				
到達目標				
3年時の認定実技審査を合格するための受身、投の形までの技術を習得することを目標とする。				
準備学習				
準備体操・回転運動・ストレッチ				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	認定実技審査実施要項			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	前回受身の確認と服装確認	服装の着方の確認・前回受身の理解
2	礼法・前回受身・浮落	礼法・礼節・受身・浮落の理解
3	講道館投の形・浮落・背負投①	浮落・背負投の入り方の理解（投げ無し）
4	講道館投の形・浮落・背負投②	浮落・背負投投げの実践
5	講道館投の形・肩車・浮腰①	肩車・浮腰の入り方の理解（投げ無し）
6	講道館投の形・肩車・浮腰②	浮落・背負投投げの実践
7	講道館投の形・払腰・釣込腰①	払腰・釣込腰の入り方の理解（投げ無し）
8	講道館投の形・払腰・釣込腰②	払腰・釣込腰の投げの実践
9	講道館投の形・送足払・支釣込足①	送足払・支釣込足の入り方の理解（投げ無し）
10	講道館投の形・送足払・支釣込足②	送足払・支釣込足の投げの実践
11	講道館投の形・内股①	内股の入り方の理解（投げ無し）
12	講道館投の形・内股②	内股の実践
13	講道館投の形・手技通しで練習	講道館投の形・手技通しで練習し習得する
14	講道館投の形・腰技通しで練習	講道館投の形・腰技通しで練習し習得する
15	講道館投の形・足技通しで練習	講道館投の形・足技通しで練習し習得する



令和7年度 シラバス				
科目名	柔道Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期	1	演習
担当教員	水村麻輝			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
柔道の目的である心身の鍛え方、自分の力を社会百般に活かせるように教育をしていく。 柔道整復師としての身だしなみ、礼法 受身 形 乱取を理論と実技を通して学んでいく。				
到達目標				
認定実技審査合格するための服装・マナー・礼法・受身・形を修得することを目標とする。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	認定実技審査実施要領			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	3年柔道認定に向けてのオリエンテーション	認定実技に向けての日程確認と授業の進め方について
2	受身・服装・礼法の確認	受身・服装・礼法の確認と理解する
3	柔道の歴史・マナーについて	柔道の歴史・マナーについて理解する
4	講道館投の形・浮落・背負投①	講道館投の形・浮落・背負投の作法を理解する
5	講道館投の形・浮落・背負投②	講道館投の形・浮落・背負投の投げ方を理解する
6	講道館投の形・肩車・浮腰①	講道館投の形・肩車・浮腰の作法を理解する
7	講道館投の形・肩車・浮腰②	講道館投の形・肩車・浮腰の投げ方を理解する
8	講道館投の形・払腰・釣込腰①	講道館投の形・払腰・釣込腰の作法を理解する
9	講道館投の形・払腰・釣込腰②	講道館投の形・払腰・釣込腰の投げ方を理解する
10	講道館投の形・送足払・支釣込足①	講道館投の形・送足払・支釣込足の作法を理解する
11	講道館投の形・送足払・支釣込足②	講道館投の形・送足払・支釣込足の投げ方を理解する
12	講道館投の形・内股①	講道館投の形・内股の作法を理解する
13	講道館投の形・内股②	講道館投の形・内股の投げ方を理解する
14	約束乱取について	約束乱取について理解する
15	約束乱取・技の習得①	約束乱取・技の入り方を理解する
16	約束乱取・技の習得②	約束乱取・技の習得と組手の理解をする
17	手技の練習・約束乱取	形（手技）の練習と約束乱取投げの練習
18	腰技の練習・約束乱取	形（腰技）の練習と約束乱取投げの練習
19	足技の練習・約束乱取	形（足技）の練習と約束乱取投げの練習
20	前回受身・投の形・約束乱取	全体を通した練習

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	社会保障制度				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	2年	後期	1	講義	1	わが国の社会保障	ガイダンス 社会保障とは
担当教員	中神 太一				2	わが国の社会保障	社会保険制度全体
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。				3	わが国の社会保障	医療保険について
					4	わが国の社会保障	医療保険について2
					5	わが国の社会保障	その他社会保険制度（年金 介護）
					6	柔道整復師業務における療養費	療養費制度の概要
					7	柔道整復師業務における療養費	療養費請求のケーススタディ1
					8	柔道整復師業務における療養費	療養費請求のケーススタディ2

令和7年度 シラバス				
科目名	基礎柔道整復学Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期	2	講義
担当教員	鈴木 忠慶			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
柔道整復学履修に必要な基本的知識を身につける。				
到達目標				
初年度教育として柔道整復学の教科書の構成、教科概要について全体像を理解するとともに、常用される医学用語を使用・理解できるようになる。				
準備学習				
授業外でも当校指定のICTプラットフォームを日常的に使うこと。学習効果については、日々の学習に取り入れることが、訓練であり効果となっていくため、ぜひ実践してください。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	柔道整復学校協会監修 柔道整復学理論第7版			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス :専門（専修）学校とは	専門（専修）学校での単位の修得・オンデマンドについてのガイダンス
2	現在の柔道整復師の職業理解	柔道整復師の成立と学生のうちにできること
3	勉強の仕方と記憶の仕組み	医療教育における継続的学習の重要性について
4	基礎解剖 骨の説明	初年度に必要な骨の説明
5	基礎解剖 筋の説明	初年度に必要な筋の説明
6	基礎解剖 専門用語の説明	初年度に必要な専門用語の説明
7	柔道整復師に必要な解剖学の学び方	解剖学の学習導入と効果的な学習方法について
8	柔道整復師に必要な生理学の学び方	生理学の学習導入と効果的な学習方法について
9	柔道整復師に必要な解剖学の学び方	解剖学の学習導入と効果的な学習方法について
10	柔道整復師に必要な整形外科の学び方	整形外科の学習導入と効果的な学習方法について
11	柔道整復師に必要な一般臨床医学の学び方	一般臨床医学の学習導入と効果的な学習方法について
12	柔道整復師に必要なリハビリテーション医学の学び方	リハビリテーション医学の学習導入と効果的な学習方法について
13	柔道整復師に必要な病理学の学び方	病理学の学習導入と効果的な学習方法について
14	柔道整復師に必要な公衆衛生学の学び方	公衆衛生学の学習導入と効果的な学習方法について
15	柔道整復師に必要な運動学の学び方	運動学の学習導入と効果的な学習方法について
16	柔道整復学を学ぶ 総論の学び方 1	総論前半部分の基礎学習のポイント
17	柔道整復学を学ぶ 総論の学び方 2	総論後半部分の基礎学習のポイント
18	柔道整復学を学ぶ 総論の学び方 3	各論での学習のポイント 骨折
19	柔道整復学を学ぶ 総論の学び方 4	各論での学習のポイント 脱臼・軟部組織損傷
20	まとめ	学習内容の総括

令和7年度 シラバス				
科目名	基礎柔道整復学Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期	5	講義
担当教員	中神 太一			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
総論における捻挫脱臼(p12-19,p46-59)、筋の損傷（p64-p70）についての損傷状態について理解するほか、鎖骨骨折からモンテギア骨折の各論について理論編(p174-214)実技編（p62-146）を用いて損傷の発生機序から治癒または後遺症においてまでを学ぶ。				
到達目標				
柔道整復学の捻挫・脱臼における総論および、上肢骨折についてそれぞれ、概要、発生機序、症状、合併症、整復、固定を説明することができる。 また、あらゆる出題形式の国家試験でも解けるようなレベルを目指す。				
準備学習				
授業で勉強したことへの復習もかねて、定期試験前に自己学習できるようなノートづくりを心掛けたい				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 理論編 改訂第7版			
	全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 実技編 改訂第2版			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス 総論	人体に加わる力
2	総論	損傷時に加わる力 痛みの基礎
3	総論 各組織の損傷	関節の損傷（捻挫－脱臼）A-B
4	総論 各組織の損傷	関節の損傷（捻挫－脱臼）C-D
5	総論 各組織の損傷	関節の損傷（捻挫－脱臼）E-F
6	総論 各組織の損傷	筋の損傷A-C
7	総論 各組織の損傷	筋の損傷D-F
8	各論 上肢骨折	鎖骨骨折1
9	各論 上肢骨折	鎖骨骨折2
10	各論 上肢骨折	鎖骨骨折3
11	各論 上肢骨折	肩甲骨骨折1
12	各論 上肢骨折	肩甲骨骨折2
13	各論 上肢骨折	上腕骨近位骨折1
14	各論 上肢骨折	上腕骨近位骨折2
15	各論 上肢骨折	上腕骨外科頸骨折1
16	各論 上肢骨折	上腕骨外科頸骨折2
17	各論 上肢骨折	上腕骨外科頸骨折3
18	総復習	総復習（総論～肩甲骨骨折）
19	総復習	総復習（上腕骨近位骨折～上腕骨外科頸骨折）
20	各論 上肢骨折	上腕骨骨幹部骨折1

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

科目名		基礎柔道整復学Ⅱ
21	各論 上肢骨折	上腕骨骨幹部骨折2
22	各論 上肢骨折	上腕骨骨幹部骨折3
23	各論 上肢骨折	上腕骨顆上骨折1
24	各論 上肢骨折	上腕骨顆上骨折2
25	各論 上肢骨折	上腕骨顆上骨折3
26	各論 上肢骨折	上腕骨顆上骨折4
27	各論 上肢骨折	上腕骨外顆骨折
28	各論 上肢骨折	上腕骨内側上顆骨折
29	各論 上肢骨折	橈骨近位端部骨折
30	各論 上肢骨折	肘頭骨折
31	各論 上肢骨折	橈骨骨幹部骨折
32	各論 上肢骨折	尺骨骨幹部骨折
33	各論 上肢骨折	モンテギア骨折1
34	各論 上肢骨折	モンテギア骨折2
35	各論 上肢骨折	ガレアジ骨折
36	各論 上肢骨折	総復習1（総論～上腕骨外科頸骨折）
37	各論 上肢骨折	総復習2（上腕骨骨幹部骨折～上腕骨遠位骨折）
38	各論 上肢骨折	総復習3（前腕骨近位骨折～前腕骨骨幹部骨折）

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	基礎柔道整復学Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期,後期	5	講義
担当教員	三野勝大			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
総論における骨折（p 20～46）の損傷状態について理解するほか、橈・尺両骨骨幹部骨折から末節骨骨折の各論（p214～244）について、損傷の発生機序・症状・合併症・固定について学ぶ。				
到達目標				
柔道整復学の総論、および上肢骨折について授業範囲を説明することを目標とする。 ・総論については骨折の分類・症状・合併症を理解して説明できる。 ・上肢骨折については、発生機序・特徴・症状・合併症・治療法を理解して説明できる。				
準備学習				
時間外の学習では、毎回の授業内容の復習が重要であり、「重要事項の理解・暗記」を反復する時間を個別でもうけることが望まれる。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 理論編 改訂第7版  全国柔道整復学校協会監 柔道整復学 実技編 改訂第2版			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	【骨の損傷】①	A.骨の形態と機能
2	【骨の損傷】②	B.骨損傷の概説
3	【骨の損傷】③	C.骨折の分類 1
4	【骨の損傷】④	C.骨折の分類 2
5	【骨の損傷】⑤	D.骨折の損傷（骨折の1.局所症状・2.全身症状）
6	【骨の損傷】⑥	D.骨折の損傷（骨折の1.局所症状・2.全身症状）
7	【骨の損傷】⑦	E.骨折の合併症（1.併発症・2.続発症）
8	【骨の損傷】⑧	E.骨折の合併症（1.併発症・2.続発症）
9	【骨の損傷】⑨	E.骨折の合併症（3.後遺症）
10	【骨の損傷】⑩	E.骨折の合併症（3.後遺症）
11	【骨の損傷】⑪	F.小児の骨折・高齢者骨折（1.小児骨折）
12	【骨の損傷】⑫	F.小児の骨折・高齢者骨折（2.高齢者骨折）
13	【骨の損傷】⑬	G.骨折の癒合日数 H.骨折の治癒経過,
14	【骨の損傷】⑭	I .骨折の予後
15	【骨の損傷】⑮	J .骨折の治癒に影響を与える因子
16	【G. 前腕骨骨幹部骨折】①	5.橈・尺両骨骨幹部骨折1
17	【G. 前腕骨骨幹部骨折】②	5.橈・尺両骨骨幹部骨折2
18	【復習】	（骨損傷）
19	【復習】	（骨損傷）
20	【H.前腕遠位端部骨折】①	1.橈骨遠位端部骨折（コース1）

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

科目名		基礎柔道整復学Ⅲ
21	【H.前腕遠位端部骨折】②	1.橈骨遠位端部骨折（コーレス2）
22	【H.前腕遠位端部骨折】③	1.橈骨遠位端部骨折（コーレス3）
23	【H.前腕遠位端部骨折】④	1橈骨遠位端部骨折（スミス）
24	【H.前腕遠位端部骨折】⑤	1.橈骨遠位端部骨折（バートン）
25	【I .手根部の骨折】①	1舟状骨骨折1
26	【I .手根部の骨折】②	1舟状骨骨折2
27	【I .手根部の骨折】③	2三角骨骨折、3有鉤骨骨折
28	【I .手根部の骨折】④	4豆状骨骨折
29	【J.中手骨部の骨折】①	1.中手骨骨頭部骨折
30	【J.中手骨部の骨折】②	2.中手骨頸部骨折
31	【J.中手骨部の骨折】③	3.中手骨骨幹部骨折
32	【J.中手骨部の骨折】④	4.第 1 中手骨基部骨折1（ベネット、ローランド）
33	【K.指骨の骨折】①	1.基節骨骨折
34	【K.指骨の骨折】②	2.中節骨骨折
35	【K.指骨の骨折】③	3.末節骨骨折
36	【K.指骨の骨折】④	3末節骨骨折（マレットフィンガー）
37	【復習】	復習（上肢骨折）
38	【復習】	復習（上肢骨折）

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	基礎柔道整復学Ⅳ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期,後期	5	講義
担当教員	水村麻輝			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
教科書で学び、プリントやノートにまとめて学習成果を国家試験過去問題にて確認する。「自分専用にカスタマイズされた参考書、ノートを作る」ことを目標とする。				
到達目標				
下肢の損傷について、①分類②発生機序とメカニズム③治療法④合併症を患者さんを想定して説明できるようになる。また、該当部位の①骨②筋（起始・停止・作用・神経支配）を口述することができるようになる。				
準備学習				
①当該範囲の解剖学（骨・筋・神経）の復習 ②その日に行った教科書の読み込みを促し、自宅学習習慣をつける。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	「解剖学」南江堂 「柔道整復学理論編」第7版 南江堂			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション（授業の進め方、評価方法）	
2	腱の損傷 A 構造と機能	
3	腱の損傷 B 腱損傷の概説	
4	腱の損傷 C 腱損傷の分類	
5	腱の損傷 D・E症状と治癒機序	
6	末梢神経の損傷A構造と機能 B概説	
7	末梢神経の損傷C神経損傷の分類	
8	末梢神経の損傷D神経損傷の症状 E治癒過程	
9	下肢の骨折 骨盤単独骨折①（腸骨翼・恥骨・坐骨単独骨折）	
10	下肢の骨折 骨盤単独骨折②（腸骨翼・恥骨・坐骨単独骨折）	
11	下肢の骨折 骨盤単独骨折③（仙骨・尾骨単独骨折）	
12	下肢の骨折 骨盤単独骨折④（上前腸骨棘裂離骨折・下前腸骨棘裂離骨折）	
13	骨盤輪骨折・脂肪塞栓症について	
14	大腿骨骨折近位端部骨折①骨頭部骨折	
15	大腿骨骨折近位端部骨折②頸部骨折	
16	大腿骨近位端部骨折③大腿骨転子部骨折	
17	大腿骨頸部骨折ガーデン分類とパウエルの分類について	
18	大腿骨骨幹部骨折①関与する筋の学習と発生機序	
19	大腿骨骨幹部骨折②骨片転位と合併症について	
20	大腿骨遠位端部骨折（大腿骨顆上・遠位骨端線離開）	



令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

科目名		基礎柔道整復学Ⅳ
21	大腿骨遠位端部骨折（大腿骨顆上・遠位骨端線離開）	
22	内側側副靱帯付着部の裂離骨折と内側側副靱帯について	
23	腸脛靱帯付着部の裂離骨折と腸脛靱帯について	
24	膝蓋骨骨折	
25	大腿四頭筋と前十字靱帯と膝の関係性について	
26	脛骨粗面骨折・顆間隆起骨折	
27	下腿骨骨幹部骨折（脛骨単独骨折・脛腓両骨骨折）	
28	腓骨骨幹部単独骨折	
29	下腿骨果上骨折	
30	下腿骨疲労骨折（脛骨の学習）	
31	下腿骨疲労骨折（腓骨の学習）	
32	下腿遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折①	
33	下腿遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折② ボット・デュブイトラン・コットン骨折	
34	足根骨骨折①（距骨骨折）	
35	足根骨骨折②（踵骨骨折）	
36	足根骨骨折③（舟状骨・立方骨・楔状骨骨折）	
37	中足骨骨幹部骨折・基部骨折	
38	中足骨疲労骨折・趾骨骨折	

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	基礎柔道整復学Ⅴ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	通年	5	講義
担当教員	岩井一歩			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
全身におきる脱臼について学び、推測される症状所見から適切な整復・固定ができるように知識を養う。				
到達目標				
脱臼はもちろんのこと、同様の発生機序から想定できる骨折や軟部組織損傷との鑑別ができるようになるための知識を身につける。				
準備学習				
授業時間外でも予習・復習をし向学心をもって授業に臨むこと。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第7版 南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	1年間の授業計画
2	脱臼の総論	脱臼の総論振り返り
3	脱臼の総論	脱臼の総論振り返り
4	顎関節脱臼	顎関節脱臼の特徴について
5	脊椎の解剖	脊椎の機能解剖について
6	頸椎脱臼	頸椎脱臼の特徴について
7	胸椎・腰椎の脱臼	胸椎・腰椎脱臼の特徴について
8	肩関節の解剖	肩関節の解剖と機能について
9	鎖骨の脱臼	鎖骨部に起きる脱臼の特徴について
10	肩関節脱臼	肩関節に起きる脱臼の特徴について
11	反復性肩関節脱臼	肩関節脱臼の合併症について
12	肘関節の解剖	肘関節部の機能解剖について
13	肘関節脱臼	肘関節に起きる脱臼の特徴について
14	肘内障	肘内障の特徴について
15	手関節部の解剖	手関節部の機能解剖について
16	手関節部の脱臼	手関節部に起きる脱臼の特徴について
17	手根骨の脱臼	手根骨に起きる脱臼の特徴について
18	手部～手指部の脱臼	手指部に起きる脱臼の特徴について
19	股関節の解剖	股関節周囲の機能解剖について
20	股関節脱臼	股関節に起きる脱臼の特徴について

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

科目名		基礎柔道整復学Ⅴ
21	発育期股関節形成不全	発育期股関節形成不全について
22	膝関節の解剖	膝関節の機能解剖について
23	膝蓋骨脱臼	膝蓋骨に起きる脱臼の特徴について
24	膝関節脱臼	膝関節に起きる脱臼の特徴について
25	足部の解剖学	足関節周囲の機能解剖について
26	足関節周囲の脱臼	足関節に起きる脱臼の特徴について
27	ショパール・リスフラン関節脱臼	ショパール関節・リスフラン関節に起きる脱臼の特徴について
28	中足趾節関節の脱臼	足趾に起きる脱臼の特徴について
29	画像診断	医用画像の見方について
30	頸部疾患の類焼鑑別	脱臼と鑑別が必要な頸部の疾患について
31	腰背部疾患の類症鑑別	脱臼と鑑別が必要な腰背部の疾患について
32	肩関節周囲の類症鑑別	脱臼と鑑別が必要な肩関節周囲の疾患について
33	肘部・手部の類症鑑別	脱臼と鑑別が必要な肘より遠位の疾患について
34	股関節周囲の類症鑑別	脱臼と鑑別が必要な股関節周囲の疾患について
35	膝関節周囲の類症鑑別	脱臼と鑑別が必要な膝関節周囲の疾患について
36	足関節周囲の類症鑑別	脱臼と鑑別が必要な足関節部の疾患について
37	まとめ	1年間の総復習
38	解説	解説

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	基礎柔道整復学Ⅵ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	3年	通年	5	講義	1	ガイダンス	1年間の授業計画
担当教員	佐々木祐樹 岩井一歩				2	運動器の基礎知識	運動器の機能解剖について
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。				3	整形外科的診察法	柔道整復師が応用できる整形外科領域の診察法
授業概要					4	整形外科的検査法	柔道整復師が応用できる整形外科領域の検査法
接骨院や医療機関で診られる外傷や疾患について柔道整復学・整形外科の両側面から学び、自身で判断や見極めができるようになるため知識を身につける。					5	骨・関節損傷	骨・関節周囲におきる損傷の整形外科的解釈
到達目標					6	スポーツ整形外科	スポーツが起因するケガについて
症状や受傷機序などから各疾患に対し、根拠に基づいた鑑別が出来るようになるだけの知識・見識を身につけることを到達目標とする。					7	疾患別各論	接骨院では診療することが難しい整形外科的疾患について
準備学習					8	疾患別各論	接骨院では診療することが難しい整形外科的疾患について
国家試験にも将来的な自分の見識にもつながるので授業時間外でも予習・復習を忘れず常に研鑽を続けること。					9	疾患別各論	接骨院では診療することが難しい整形外科的疾患について
成績評価					10	疾患別各論	接骨院では診療することが難しい整形外科的疾患について
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。					11	身体部位別各論	専門医との連携が必要となる可能性がある疾患について
使用テキスト	南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第7版				12	身体部位別各論	専門医との連携が必要となる可能性がある疾患について
	南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版				13	身体部位別各論	専門医との連携が必要となる可能性がある疾患について
	南江堂 整形外科学 改訂第4版				14	身体部位別各論	専門医との連携が必要となる可能性がある疾患について
					15	まとめ	総復習
					16	骨折 各論	頭部・顔面の骨折
					17	骨折 各論	頸椎・胸椎の骨折
					18	骨折 各論	腰椎・胸部の骨折
					19	骨折 各論	骨盤部の骨折
					20	骨折 各論	大腿部の骨折

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

科目名		基礎柔道整復学Ⅵ
21	骨折 各論	膝蓋骨・下腿骨の骨折
22	骨折 各論	足部の骨折
23	脱臼 各論	頭部・顔面・体幹の脱臼
24	脱臼 各論	下肢の脱臼
25	軟部組織損傷 各論	頭部・体幹の軟部組織損傷
26	軟部組織損傷 各論	股関節部の軟部組織損傷
27	軟部組織損傷 各論	大腿部の軟部組織損傷
28	軟部組織損傷 各論	膝関節部の軟部組織損傷①
29	軟部組織損傷 各論	膝関節部の軟部組織損傷②
30	軟部組織損傷 各論	下腿部の軟部組織損傷
31	軟部組織損傷 各論	足関節部・足部の軟部組織損傷
32	徒手検査法	体幹・下肢の徒手検査法
33	外傷予防	競技者における外傷予防
34	まとめ	問題演習（骨折 各論）
35	まとめ	問題演習（脱臼 各論）
36	まとめ	問題演習（軟部組織損傷 各論）
37	まとめ	総復習 1
38	まとめ	総復習 2

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	基礎柔道整復学Ⅶ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	3年	通年	5	講義	1	ガイダンス・解剖総論①	細胞・組織①
担当教員	大嶋 和成				2	解剖総論②	細胞・組織② 骨総論
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。				3	筋骨格①	骨各論①
授業概要							
解剖学・運動学において、基礎的な知識および臨床で必須となる身体の構造・運動についての深い知識・理解の習得を目指す。							
到達目標							
単に単語・内容を覚えるだけではなく、その他の科目の内容とリンクしていることを理解した上で、総合的な学力の向上の基盤をつくり、今後の臨床の現場で直面する症例に対して考える事が出来る力を養う事を目指す。							
準備学習							
予習として、授業計画に示された教科書の範囲を熟読する。復習として、授業内容など問題演習を行うなどの確認作業を行う。							
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。							
使用テキスト	1.全国柔道整復学校協会監修 解剖学改訂第2版 2.全国柔道整復学校協会監修 運動学改訂第3版 3.配布資料						
					4	筋骨格②	骨各論②
					5	筋骨格③	筋各論①
					6	筋骨格④	筋各論②
					7	脈管①	総論・心臓①
					8	脈管②	心臓② 動脈系①
					9	脈管③	動脈系② 静脈系①
					10	脈管④	静脈系② リンパ①
					11	内臓①	消化器①
					12	内臓②	消化器②
					13	内臓③	呼吸器①
					14	内臓④	呼吸器② 泌尿器①
					15	内臓⑤	泌尿器② 生殖器①
					16	内臓⑥	生殖器②
					17	まとめ	まとめ
					18	内分泌	内分泌
					19	神経①	神経の基礎 脳①
					20	神経②	脳② 脊髄①（伝導路）

## 令和6年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

科目名		基礎柔道整復学Ⅶ
21	神経③	脊髄②（末梢神経）
22	神経④	脊髄③（自律神経）
23	感覚①	皮膚・視覚①
24	感覚②	視覚② 聴覚
25	体表・映像解剖	体表区分・X線・ＣＴスキャン
26	運動学①	概説・身体運動と力学
27	運動学②	運動器・神経の構造と機能
28	運動学③	運動感覚・反射と随意運動
29	運動学④	四肢と体幹の運動①
30	運動学⑤	四肢と体幹の運動②
31	運動学⑥	姿勢
32	運動学⑦	歩行
33	運動学⑧	運動発達・運動学習
34	振り返り①	解剖学まとめ①（筋骨格）
35	振り返り②	解剖学まとめ②（脈管・内臓）
36	振り返り③	解剖学まとめ③（神経・感覚）
37	振り返り④	運動学まとめ①
38	振り返り⑤	運動学まとめ②

[illegible]

## 令和7年度 シラバス

科目名	外傷の保存療法			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	後期	1	講義
担当教員	中神太一			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
------

外傷における保存療法と観血療法の違いと特徴について学ぶ。  
特にその鑑別に必要な検査法については国家試験必修問題に該当するため  
検査の意義、操作手順、助手への指示等を深く学ぶ。

到達目標
------

鑑別に必要な検査法について、国家試験問題に対応でき、且つ臨床現場で使える状態にする。

準備學習

柔道整復学理論および実技編の復習をしておくことが必要とされる

成績評価	
------	--

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。  
定期試験の点数を評点とし、評価する。

使用テキスト	南江堂 柔道整復学・理論編 改定第 7 版 南江堂 柔道整復学・実技編 改定第 2 版
--------	--

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

授業計画
------

[illegible]



令和7年度 シラバス				
科目名	臨床柔道整復学Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	後期	2	講義
担当教員	塩崎由規, 笹熊彩花			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
接骨院や医療機関で診られる外傷や疾患について柔道整復学・整形外科の両側面から学び、自身で判断や見極めができるようになるため知識を身につける。				
到達目標				
症状や受傷機序などから各疾患に対し、根拠に基づいた鑑別が出来るようになるだけの知識・見識を身につけることを到達目標とする。				
準備学習				
国家試験にも将来的な自分の見識にもつながるので授業時間外でも予習・復習を忘れず常に研鑽を続けること。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法				
使用テキスト	南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第7版 南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	柔道整復術および柔道整復師の沿革	柔道整復術の歴史的背景・柔道との関係 現代社会における柔道整復術の意義
2	業務範囲とその心得、柔道整復師倫理綱領	柔道整復師の業務範囲 倫理綱領と職業倫理
3	人体に加わる力と損傷のメカニズム	力の種類と影響 外力と内力の関係
4	損傷時に加わる力とその種類	損傷を引き起こす力の種類 影響を与える要素（年齢、性別、筋肉の状態など）
5	痛みの基礎①（痛みの種類とメカニズム）	痛みの分類（急性疼痛・慢性疼痛） 運動器の痛みのメカニズム
6	痛みの基礎②（評価とアプローチ）	疼痛評価方法 痛みに対する治療・マネジメント
7	各組織の損傷①（骨・関節）	骨折の種類と病態 捻挫・脱臼のメカニズム
8	各組織の損傷②（筋・腱・末梢神経）	筋損傷（筋挫傷、筋断裂）・腱損傷とその影響 末梢神経損傷の特徴
9	診察と診断（診察手順・治療計画の作成）	診察時の注意点 診察手順と施術録の記載
10	総復習①	第1回～第9回の復習テスト
11	総復習解説①	復習テストの解説と補足
12	治療法①（整復法）	整復の原則と方法
13	治療法②（固定法）	固定の種類と適応
14	治療法③（後療法と指導管理）	後療法の重要性 指導管理の実践
15	外傷予防①（一次予防）	外傷予防の基本概念
16	外傷予防②（二次・三次予防）	早期発見・早期治療の重要性
17	実践演習（評価・診断・治療計画の立案）	ケーススタディを用いた演習
18	総復習②	第12回～第17回の復習テスト
19	総復習解説②	復習テストの解説と補足

令和7年度 シラバス				
科目名	臨床柔道整復学Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	通年	5	講義
担当教員	吉成有紗			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	この授業の意義、進め方の説明。肩甲骨の描写と理解
2	骨の名称 1	上腕骨の描写と理解
3	骨の名称 2	前腕骨の描写と理解
4	骨の名称 3	手根骨、手の骨の描写と理解
5	骨の名称 4	体幹の骨の描写と理解、上肢の骨の復習
6	骨の名称 5	骨盤、寛骨の描写と理解
7	骨の名称 6	大腿骨の描写と理解
8	骨の名称 7	下腿骨の描写と理解
9	骨の名称 8	足根骨、足趾の描写と理解
10	骨の名称 9	頭蓋骨の描写と理解、下肢骨の復習
11	上肢筋肉の名称 1	咀嚼筋・浅胸筋・腹部の描写と理解
12	上肢筋肉の名称 2	上肢帯の筋の描写と理解
13	上肢筋肉の名称 3	上腕の筋の描写と理解
14	上肢筋肉の名称 4	上腕の筋の描写と理解
15	上肢筋肉の名称 5	上肢筋肉名称 1 ～ 4 の筋肉の復習
16	上肢筋肉の名称 6	前腕の筋の描写と理解
17	上肢筋肉の名称 7	前腕の筋の描写と理解
18	上肢筋肉の名称 8	前腕の筋の描写と理解
19	上肢筋肉の名称 9	母指球筋、小指球筋、中手筋の描写と理解
20	上肢筋肉の名称 1 0	上肢筋肉 6 ～ 9 の復習

授業概要	
筋・骨格系の理解と描写とX線における正常な関節構造を 1 年かけてしっかりと理解させる。 柔道整復師に必要な骨の名称、筋肉名、起始停止、支配神経、作用を覚える。	
到達目標	
骨、筋肉の描写が出来、名称を言えるようにする。 さらに筋肉は名称に加えて、起始停止、支配神経、作用も覚え、口頭でも筆記でも答えられるようにする。3Dの画像を用いて、立体的に骨、筋肉をとらえることに重点を置く。	
準備学習	
解剖学の教科書や3Dの筋骨格系の資料を使用し、全体のイメージを捉えておく。またグループワークを取り入れ、チームワークの形成が大事となる。	
成績評価	
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。	

使用テキスト	ヒューマン・アナトミー・アトラスの3D画像
	医歯薬出版株式会社 全国柔道整復学校教会 監修 解剖学 改定第2版
	全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

科目名		臨床柔道整復学Ⅱ
21	下肢筋肉の名称 1 1	骨盤筋の描写と理解
22	下肢筋肉の名称 1 2	寛骨筋 1 の描写と理解
23	下肢筋肉の名称 1 3	寛骨筋 2 の描写と理解
24	下肢筋肉の名称 1 4	大腿部の筋 1 の描写と理解
25	下肢筋肉の名称 1 5	下肢の筋肉11～14の復習
26	下肢筋肉の名称 1 6	大腿部の筋 2 の描写と理解
27	下肢筋肉の名称 1 7	下腿の筋 1 の描写と理解
28	下肢筋肉の名称 1 8	下腿の筋 2 の描写と理解
29	下肢筋肉の名称 1 9	足背の筋、母指球筋の描写と理解
30	下肢筋肉の名称 2 0	中足筋の描写と理解、下肢筋肉16～19の復習
31	骨・筋肉の名称 1	筋骨格系の確認 1
32	骨・筋肉の名称 2	筋骨格系の確認 2
33	骨・筋肉の名称 3	筋骨格系の確認 3
34	骨・筋肉の名称 4	筋骨格系の確認 4
35	骨・筋肉の名称 5	筋骨格系の確認 5
36	骨・筋肉の名称 6	筋骨格系の確認 6
37	骨・筋肉の名称 7	筋骨格系の確認 7
38	骨・筋肉の名称 8	筋骨格系の復習

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	臨床柔道整復学Ⅲ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	通年	5	講義
担当教員	中神 太一			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
筋・骨格系の理解と描写とX線における正常な関節構造を1年かけてしっかりと理解させる。 柔道整復師に必要な骨の名称、筋肉名、起始停止、支配神経、作用を覚える。				
到達目標				
骨、筋肉の描写が出来、名称を言えるようにする。 さらに筋肉は名称に加えて、起始停止、支配神経、作用も覚え、口頭でも筆記でも答えられるようにする。3Dの画像を用いて、立体的に骨、筋肉をとらえることに重点を置く。				
準備学習				
解剖学の教科書や3Dの筋骨格系の資料を使用し、全体のイメージを捉えておく。またグループワークを取り入れ、チームワークの形成が大事となる。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	ヒューマン・アトミー・アトラスの3D画像 医歯薬出版株式会社 全国柔道整復学校教会 監修 解剖学 改定第2版 全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	この授業の意義、進め方の説明。肩甲骨の描写と理解
2	骨の名称 1	上腕骨の描写と理解
3	骨の名称 2	前腕骨の描写と理解
4	骨の名称 3	手根骨、手の骨の描写と理解
5	骨の名称 4	体幹の骨の描写と理解、上肢の骨の復習
6	骨の名称 5	骨盤、寛骨の描写と理解
7	骨の名称 6	大腿骨の描写と理解
8	骨の名称 7	下腿骨の描写と理解
9	骨の名称 8	足根骨、足趾の描写と理解
10	骨の名称 9	頭蓋骨の描写と理解、下肢骨の復習
11	上肢筋肉の名称 1	咀嚼筋・浅胸筋・腹部の描写と理解
12	上肢筋肉の名称 2	上肢帯の筋の描写と理解
13	上肢筋肉の名称 3	上腕の筋の描写と理解
14	上肢筋肉の名称 4	上腕の筋の描写と理解
15	上肢筋肉の名称 5	上肢筋肉名称 1～4の筋肉の復習
16	上肢筋肉の名称 6	前腕の筋の描写と理解
17	上肢筋肉の名称 7	前腕の筋の描写と理解
18	上肢筋肉の名称 8	前腕の筋の描写と理解
19	上肢筋肉の名称 9	母指球筋、小指球筋、中手筋の描写と理解
20	上肢筋肉の名称 1 0	上肢筋肉 6～9の復習

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

科目名		臨床柔道整復学Ⅲ
21	下肢筋肉の名称 1 1	骨盤筋の描写と理解
22	下肢筋肉の名称 1 2	寛骨筋 1 の描写と理解
23	下肢筋肉の名称 1 3	寛骨筋 2 の描写と理解
24	下肢筋肉の名称 1 4	大腿部の筋 1 の描写と理解
25	下肢筋肉の名称 1 5	下肢の筋肉11～14の復習
26	下肢筋肉の名称 1 6	大腿部の筋 2 の描写と理解
27	下肢筋肉の名称 1 7	下腿の筋 1 の描写と理解
28	下肢筋肉の名称 1 8	下腿の筋 2 の描写と理解
29	下肢筋肉の名称 1 9	足背の筋、母指球筋の描写と理解
30	下肢筋肉の名称 2 0	中足筋の描写と理解、下肢筋肉16～19の復習
31	骨・筋肉の名称 1	筋骨格系の確認 1
32	骨・筋肉の名称 2	筋骨格系の確認 2
33	骨・筋肉の名称 3	筋骨格系の確認 3
34	骨・筋肉の名称 4	筋骨格系の確認 4
35	骨・筋肉の名称 5	筋骨格系の確認 5
36	骨・筋肉の名称 6	筋骨格系の確認 6
37	骨・筋肉の名称 7	筋骨格系の確認 7
38	骨・筋肉の名称 8	筋骨格系の復習

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	臨床柔道整復学Ⅳ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	通年	5	講義
担当教員	佐々木祐樹 塩崎由規			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
柔道整復学理論編 軟部組織損傷の頭部・体幹（p337-349）、上肢（p350-379）、下肢（p380-408）を中心に発生機序から後遺症に至るまで授業を行う。 上記に関連する機能解剖・徒手検査法に加え、実技編も参照する。				
到達目標				
柔道整復学の軟部組織損傷について授業概要の範囲を理解し説明することができる。				
準備学習				
事前に教科書の読解を行い必要な前提知識の確認をしてください。授業後には教科書や配布資料の復習をするなど知識の定着に努めることを期待します。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版 柔道整復学 実技編 改訂第2版			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	股関節部の軟部組織損傷	鼠蹊部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股、その他の股関節疾患
2	大腿部の軟部組織損傷	大腿部打撲、大腿四頭筋肉ばなれ、ハムストリングス肉ばなれ
3	膝関節部の軟部組織損傷	半月板損傷
4	膝関節部の軟部組織損傷	十字靱帯、側副靱帯損傷
5	膝関節部の軟部組織損傷	半月板、靱帯損傷の徒手検査法
6	膝関節部の軟部組織損傷	発育期の膝関節障害（オスグッド・シュラッター病・ジャンパー膝・分裂膝蓋骨）
7	膝関節部の軟部組織損傷	腸脛靱帯炎、鷲足炎、膝蓋大腿関節症、関節包・滑液包の異常、神経障害
8	下腿部の軟部組織損傷	アキレス腱炎、周囲炎、断裂、下腿三頭筋肉ばなれ、シンスプリント
9	足関節部の軟部組織損傷	外側、内側靱帯損傷、脛腓靱帯損傷、二分靱帯損傷
10	足関節部の軟部組織損傷	腓骨筋腱脱臼、衝突性外骨腫、三角骨障害
11	足部の軟部組織損傷	セーバー病、第1・2ケーラー病、アキレス腱滑液包炎、有痛性外脛骨
12	足部の軟部組織損傷	踵骨棘、足底腱膜炎、外反母趾、強剛母趾、種子骨障害、モートン病、扁平足障害
13	頭部の軟部組織損傷	頭部・顔面の打撲、顎関節症
14	頸部の軟部組織損傷	外傷性頸部症候群、胸郭出口症候群、寝違え
15	胸・背部の軟部組織損傷	胸肋関節損傷、肋間筋損傷、胸・背部打撲
16	腰・背部の軟部組織損傷	筋・関節性・靱帯性の疾患
17	徒手検査法	体幹および下肢の徒手検査法
18	まとめ	総復習
19	まとめ	総復習

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

科目名		臨床柔道整復学Ⅳ
21	肩関節周囲の損傷	肩峰下滑液包炎 肩関節周囲炎（五十肩）
22	肩関節周囲の損傷	腱板断裂 上腕二頭筋長頭腱断裂
23	肘関節周囲の損傷	内側側副靭帯損傷（野球肘） 外側側副靭帯損傷
24	肘関節周囲の損傷	上腕骨内側上顆炎（ゴルフ肘） 上腕骨外側上顆炎（テニス肘）
25	肩関節・肘関節周囲の損傷	復習
26	前腕・手関節の損傷	TFCC損傷（三角線維軟骨複合体損傷） 手関節捻挫（橈骨手根靭帯損傷、尺骨手根靭帯損傷など）
27	前腕・手関節の損傷	屈筋腱・伸筋腱損傷（指の腱断裂、腱鞘炎）
28	前腕・手関節の損傷	ドケルバン病（狭窄性腱鞘炎）・キンベック病
29	前腕・手関節の損傷	マレットフィンガー・ボタン穴変形・スワンネック変形
30	前腕・手関節の損傷	復習
31	神経障害	橈骨神経・正中神経・尺骨神経
32	画像	X線・CT
33	画像	MRI・超音波(エコー)
34	画像	復習
35	問題演習	総復習①
36	問題演習	総復習②
37	まとめ	問題演習①
38	まとめ	問題演習②

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	臨床柔道整復学Ⅴ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	3年	通年	5	講義	1	柔道整復術の概説	歴史・発展・現代医療との関係、倫理綱領
担当教員	塩崎由規						
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。						
授業概要							
接骨院や医療機関で診られる外傷や疾患について柔道整復学・整形外科の両側面から学び、自身で判断や見極めができるようになるため知識を身につける。							
到達目標							
症状や受傷機序などから各疾患に対し、根拠に基づいた鑑別が出来るようになるだけの知識・見識を身につけることを到達目標とする。							
準備学習							
国家試験にも将来的な自分の見識にもつながるので授業時間外でも予習・復習を忘れず常に研鑽を続けること。							
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法							
使用テキスト	南江堂 柔道整復学・理論編 改訂第7版 南江堂 柔道整復学・実技編 改訂第2版						

2	人体に加わる力と損傷の基礎	応力・外力・変形、損傷の種類と発生機序
3	痛みのメカニズムと評価	痛みの分類、疼痛神経伝達、慢性痛と急性痛
4	損傷の診断と治療計画の立案	診察手順、問診・視診・触診・動診・打診
5	治療法の基礎（整復・固定・後療法）	整復技術、固定法、物理療法、運動療法
6	施術録の作成と管理	施術録の記載方法、電子カルテの利用
7	外傷予防と運動指導	第一～第三段階の外傷予防、スポーツ外傷対策
8	骨折の分類と治癒過程	骨折の種類・分類・治癒メカニズム
9	頭部・体幹の骨折	頭蓋骨・脊椎・肋骨骨折の診断と治療
10	上肢の骨折	鎖骨・肩甲骨の骨折
11	上肢の骨折	上腕骨の骨折
12	上肢の骨折	橈骨・尺骨の骨折
13	上肢の骨折	手根骨・指骨の骨折
14	下肢の骨折	大腿骨の骨折
15	下肢の骨折	脛骨・腓骨の骨折
16	下肢の骨折	足部・趾骨の骨折
17	脱臼の分類と治療法	脱臼の分類・整復法の種類
18	頭部・顔面の脱臼	顎関節脱臼の整復法、再発防止
19	上肢の脱臼	肩関節・肘関節の脱臼
20	上肢の脱臼	手関節・手根骨・指部の脱臼



令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

科目名		臨床柔道整復学Ⅴ
21	下肢の脱臼	股関節・膝関節の脱臼
22	下肢の脱臼	足関節の脱臼
23	軟部組織損傷（概要）	軟部組織損傷の分類・診断
24	軟部組織損傷（頭部・体幹）	頸椎捻挫・胸部損傷
25	軟部組織損傷（上肢）	腱炎・靱帯損傷・筋損傷①
26	軟部組織損傷（上肢）	腱炎・靱帯損傷・筋損傷②
27	軟部組織損傷（下肢）	大腿部(肉離れ・打撲)
28	軟部組織損傷（下肢）	膝部(靱帯損傷・半月板損傷)
29	外傷評価と鑑別診断	柔道整復の範囲と除外すべき疾患
30	関節可動域測定と評価	ROM・関節可動域検査
31	臨床徒手検査法	各種徒手検査の目的と方法
32	国家試験対策①（基礎）	必修問題対策
33	国家試験対策②（応用）	記述式問題対策
34	国家試験対策③（実技）	徒手整復の確認
35	総復習①	重要項目の整理
36	総復習②	問題演習①
37	総復習③	問題演習②
38	まとめ	総復習

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	臨床柔道整復学Ⅵ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	通年	5	講義
担当教員	吉成有紗、塩崎由規			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
教科書を基本とし、必要に応じて参考書等を用いながら柔道整復師が必要とする基礎的疾患の理解を深める。また基礎的疾患の理解を得るために、柔道整復師として必要な病理学分野、生理学分野の知識を習得する。また柔道整復師を取り巻く環境としての公衆衛生を学び、知識を習得する。				
到達目標				
昨今、柔道整復では跳躍した施術について問題視されており基礎的疾患の理解が柔道整復師にも求められている。本科目では基礎となる病因について外傷とは全く異なることを注目し、柔道整復における適応疾患について見定めることが出来るようになる。				
準備学習				
授業内で講義した内容とともに柔道整復師に必要な基礎的疾患の理解や機能解剖、国民の動向、公害の理解なども含め自宅で繰り返し学習することを推奨する。また、学んだ内容を他人に指導することで理解を深める。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90％、小テスト10％の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）				
使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 病理学概論 改訂第3 版 生理学 改定第4版			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	総論：生理学の基礎と概観	生理学の基本概念、ホメオスタシス、細胞の構造と機能
2	筋の生理学①：筋の構造と機能	筋細胞の構造、筋収縮のメカニズム、アクチン・ミオシンの働き
3	筋の生理学②：エネルギー代謝と筋適	ATP産生機構（解糖系・クレブス回路・電子伝達系）、トレーニングによる筋適応
4	神経の生理学①：神経細胞の構造と電気的興奮	ニューロンの構造、活動電位の発生と伝導、シナプス伝達
5	神経の生理学②：自律神経と中枢神経	交感・副交感神経の働き、大脳・小脳・脊髄の機能
6	運動の生理学①：運動制御と神経筋連関	筋紡錘・ゴルジ腱器官の役割、姿勢制御、運動学習
7	運動の生理学②：運動負荷と生理的適応	運動時の循環・呼吸応答、疲労の生理学
8	感覚の生理学①：体性感覚と特殊感覚の基礎	触覚・温痛覚・視覚・聴覚・平衡感覚のメカニズム
9	感覚の生理学②：感覚と運動の統合機	感覚情報の処理と運動制御、脳の可塑性とリハビリテーション
10	内分泌の生理学①：ホルモンの種類と作用	内分泌系の基本概念、視床下部-下垂体-標的臓器の調節
11	内分泌の生理学②：代謝とホルモン調節	各ホルモンの作用、成長ホルモンと運動
12	生殖の生理学：性ホルモンと生殖機能	男性・女性の生殖機能、ホルモンによる調節、妊娠と分娩の生理
13	血液の生理学	体液中の血液について
14	骨の生理学	骨の構造や成長のメカニズム、カルシウム代謝について
15	循環の生理学	物質の運搬、代謝産物の取り除き、内部環境のホメオスタシスについて
16	循環の生理学	心周期について
17	呼吸	外呼吸の仕組みについて
18	尿の生成	腎臓の構造と機能について
19	尿の生成	腎臓がどのように生体の恒常性を維持するかについて
20	栄養と代謝	栄養源を摂取して代謝し、生命活動を営むしくみについて

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

科目名		臨床柔道整復学Ⅵ
21	消化と吸収	摂取された食物の消化のしくみについて
22	消化と吸収	摂取された食物の吸収のしくみについて
23	体温とその調整	熱産生と熱放散の調整のしくみについて
24	体温とその調整	柔道整復術の適応外となる疾病についての判断方法
25	代謝障害	骨癒合を遅延させる代謝障害について
26	循環障害	骨癒合を遅延させる血液の循環障害
27	循環障害	骨癒合を遅延させる血液の細胞成分による障害
28	高血圧症	全身所見にかかわる高血圧について
29	骨折の治癒	骨折の治癒に関わる細胞と組織の適応
30	体温とその調整	施術適応について鑑別 病因・素因の視点から 1
31	体温とその調整	施術適応について鑑別 病因・素因の視点から 2
32	炎症	骨折の一般外傷症状に含まれる炎症について 1
33	炎症	骨折の一般外傷症状に含まれる炎症について 2
34	免疫異常	関節置換による後療法に注意すべき免疫異常
35	腫瘍	体幹部の施術の際に必要な腫瘍の鑑別 1
36	腫瘍	体幹部の施術の際に必要な腫瘍の鑑別 2
37	腫瘍	体幹部の施術の際に必要な腫瘍の鑑別 3
38	先天性異常	既往症としてとらえる先天性異常の成り立ち

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	臨床柔道整復学Ⅶ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	前期後期	5	講義
担当教員	水村麻輝・笹熊彩花			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
座学での講義を主体として行う。主に教科書で学び、ノートまたはプリントにまとめ、学習成果を国家試験過去問題集にて確認する。「自身で振り返れるような自分専用の参考書を作成し理解を深める」ことを目標とする。				
到達目標				
臨床の現場で実際に外傷以外の疾患に気づき、違った形でアプローチができるような知識と、柔道整復師になるうえで必要な専門的知識を修得し、患者に対して口述で説明ができるようになる。				
準備学習				
当該範囲の事前学習と授業後の教科書の読み込みによる反復学習。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	「柔道整復学理論編」南江堂 「柔道整復学実技編」南江堂 「一般臨床医学」南江堂			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション（授業の進め方 評価方法）	授業の進め方や評価方法について
2	医療面接と身体診察	医療面接と身体診察について理解する
3	視診と触診治療計画の作成	視診と触診治療計画の作成について理解する
4	体型・姿勢と発生機序の関連性	体型・姿勢と発生機序の関連性について理解する
5	意識状態と頭部外傷（頭蓋骨折）	意識状態と頭部外傷（頭蓋骨折）について理解する
6	骨折の後遺症と異常運動	骨折の後遺症と異常運動について理解する
7	内分泌疾患が骨折の治癒に及ぼせる影響	内分泌疾患が骨折の治癒に及ぼせる影響について理解する
8	手根管症候群と透析の関連性	手根管症候群と透析の関連性について理解する
9	骨折治癒過程の血液の状態	骨折治癒過程の血液の状態について理解する
10	腫瘍が関連する疾患と柔道整復師の判断	腫瘍が関連する疾患と柔道整復師の判断について理解する
11	代謝と外傷に関わる管理指導	代謝と外傷に関わる管理指導について理解する
12	外傷性・非外傷性背部痛と脾臓との関連性	外傷性・非外傷性背部痛と脾臓との関連性について理解する
13	胸骨骨折時の呼吸器損傷の合併症①	胸骨骨折時の呼吸器損傷の合併症について理解する
14	胸骨骨折時の呼吸器損傷の合併症②	胸骨骨折時の呼吸器損傷の合併症について理解し説明する
15	既往歴がある患者への管理指導（危険因子の指摘）	既往歴がある患者への管理指導（危険因子の指摘）について理解する
16	外傷性と非外傷性の胸痛の違い（骨折・循環器・軟部組織損傷）	外傷性と非外傷性の胸痛の違い（骨折・循環器・軟部組織損傷）について理解する
17	外傷時に発生する腹部損傷との合併①（胃・十二指腸）	外傷時に発生する腹部損傷との合併（胃・十二指腸）について理解する
18	外傷時に発生する腹部損傷との合併②（肝臓・大腸）	外傷時に発生する腹部損傷との合併肝臓・大腸）について理解する
19	外傷時に発生する腹部損傷との合併③（腎臓・肺）	外傷時に発生する腹部損傷との合併（腎臓・肺）について理解する
20	骨折時の発熱と疾患による発熱の鑑別と判断	骨折時の発熱と疾患による発熱の鑑別と判断について理解する

科目名		臨床柔道整復学Ⅶ
21	神経疾患と骨折の合併に対する後療法①	神経疾患と骨折の合併に対する後療法について理解する
22	神経疾患と骨折の合併に対する後療法②	神経疾患と骨折の合併に対する後療法について理解し説明する
23	関節リウマチと手指関節の変形の判断	関節リウマチと手指関節の変形の判断について理解する
24	自己免疫疾患と肋軟骨損傷（肋軟骨とティーチェ病）	自己免疫疾患と肋軟骨損傷（肋軟骨とティーチェ病）について理解する
25	炎症による分類と自己免疫疾患による炎症の鑑別と判断	炎症による分類と自己免疫疾患による炎症の鑑別と判断について理解する
26	公衆衛生活動	柔道整復師が理解すべき公衆衛生活動の分類
27	健康の概念	施術の際に必要な疾病予防と健康管理の知識
28	感染症の予防	施術所内での衛生管理の重要性と感染症対策
29	消毒	施術の際に必要な消毒の知識
30	環境衛生	様々な症状を理解する上で必要となる環境衛生の要因
31	食品衛生	様々な症状を理解する上で必要となる自然毒や食品の衛生
32	保健	母子保健を学び現状の課題を把握する
33	保健	施術所で取り扱う高齢者の健康状態と医療保険について
34	保健	産業保健を通して現代ストレスにおける対策と取り組み
35	保健	各地域や、日本と世界の保健制度の違い
36	保健医療制度	施術所で必要となる日本の保健制度
37	医療倫理	医療に携わる者としての倫理
38	疫学	医療に携わる者としての疫学を理解する

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	物理療法機器等の取扱い				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	2年	後期	1	講義	1	安全対策	治療院での安全対策について
担当教員	笹熊彩花				2	物理療法の種類	物理療法の種類と分類
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。				3	電気療法	電気療法の種類と効果・禁忌について
授業概要					4	温熱療法	温熱療法の種類と効果・禁忌について
物理療法機器の使用方法及び効果について理解することができる。					5	光線・寒冷・牽引療法・その他	光線・寒冷・牽引療法・その他の種類と効果・禁忌について
到達目標					6	物理療法機器の理解①	現場での実例や使用方法・注意点などを理解する①
物理療法の患者体位や肢位、禁忌、刺激強度等の安全対策を踏まえて、電気療法、温熱療法、光線療法、寒冷療法、牽引療法等について効果および使用方法が説明できるようになる。					7	物理療法機器の理解②	現場での実例や使用方法・注意点などを理解する②
準備学習					8	総括	総復習 確認
物理療法の効果や禁忌などは臨床の現場や実習先でも重要となるため、授業内で講義した内容とともに繰り返し学習すること。							
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。							
定期試験の点数を評点とし、評価する。							
使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学・理論編 改訂7版（P109～131）						



# 令和7年度 シラバス

科目名	総合演習Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	通年	1	講義
担当教員	水村麻輝、吉成有紗			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

## 授業概要

柔道整復師の心構えや1年時の基礎となる柔道整復学理論編の補足、また解剖学、生理学における基礎知識の確認を含めた学習を行う。

到達目標

柔道整復学、解剖学、生理学の基礎を理解し、身につくようにする。

## 準備學習

学習する上でわからない箇所、なぜ理解できないのかなど疑問に思うことを日頃から書き止めておくことを推奨する。

## 成績評価

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。

定期試験の点数を評点とし、評価する。

## 使用テキスト

全國柔道整復學校協會監修	柔道整復學 理論編	改訂第7版
全國柔道整復學校協會監修	解剖學	改訂第2版
全國柔道整復學校協會監修	生理學	改訂第4版

## アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

## 授業計画

[illegible]



## 令和7年度 シラバス

科目名	総合演習Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	後期	1	講義
担当教員	岩井 一步 佐々木 祐樹			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
------

本科目では、柔道整復師に必要な実践的スキルを習得するため、実技演習と模擬試験を中心に授業を展開します。骨折・脱臼・捻挫などの各種損傷に対する適切な施術方法を学び、実際の臨床現場を想定した実技試験を実施します。また、定期的な模擬試験を通じて、理論知識の定着と実践力の向上を図ります。

到達目標

本科目の到達目標は以下の通りです：

各種損傷に対する適切な施術技術を確実に習得し、基礎レベルの実技技術を身につける。

模擬試験を通じて、国家試験レベルの問題に対応できる知識と解答力を獲得する。

準備學習

教科書・参考書を事前に読み、基本的な用語や概念を理解しておく。  
模擬試験に向けて、過去の問題集に目を通しておく。  
積極的な学習態度で臨むよう心がけてください。

成績評価	
------	--

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。

## ▼成績評価の方法

使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版
	全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 実技編 改訂第2版

全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版  
全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 実技編 改訂第2版

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

授業計画
------

[illegible]

## 令和7年度 シラバス

科目名	総合演習Ⅱ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	後期	1	講義
担当教員	中神太一			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
------

3年間の総復習としてすべての科目についての問題演習を実施する

到達目標
------

4択問題になれ、科目の理解をより深く確実なものにする

準備學習
------

これまでの対策テキスト、赤本、黒本を使用し習熟度を高めておくとうい

成績評価	
------	--

出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。  
定期試験の点数を評点とし、評価する。

使用テキスト	小竹模試（全4回）
--------	-----------

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

授業計画
------

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	臨床実習事前指導				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	1年	後期	1	講義	1	ガイダンス	臨床実習の意義
担当教員	吉成有紗・水村麻輝				2	プロフィール作成	自己分析
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。				3	プロフィール作成	自己分析結果の文章化
授業概要							
柔道整復の基礎的な技術や知識を身につけ実行できるようになることを目的とする。また、実習先での立ち振る舞いについて学習し習得することを目的とする。							
到達目標							
臨床実習において接骨院での立ち振る舞いや、骨折脱臼の基本的な知識や筋骨格系、解剖学や生理学が現場で活かせるように身につけているかを評価する。							
準備学習							
実習先はもちろん接骨院について、積極的に自ら調べ知ろうとする行動を心がける。また、実習先では1年次に習得した実技の技術や知識について確認されてもいいように自己学習に励むことを推奨する。							
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。							
使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 柔道整復学 理論編 改訂第7版 全国柔道整復学校協会監修 解剖学 改訂第2版 全国柔道整復学校協会監修 生理学 改訂第4版						

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	基礎柔道整復実技1				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	1年	前期,後期	2	演習	1	ガイダンス	テーピングの理解・施術者としての振る舞い・患者と接する際の諸注意
担当教員	佐々木祐樹				2	テープの取り扱いについて	種々のテーピングの切り方・貼り方
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。				3	テープの取り扱いについて	アンダーラップの切り方・巻き方
授業概要					4	施行部位の理解	足関節の機能解剖および触診
教科書に合わせて競技者に対する外傷予防テーピングの理解、認定実技審査で問われるテーピングの内容の習得を行う。関節、筋についての構造を把握した上でより効果的なテーピングを施すことができるよう技術の向上を図る。教科書のみならず、参考書を引用し様々なニーズに対応できるテーピング法を学ぶ。					5	足関節テーピング実技	足関節外側靱帯損傷に対するテーピング法（アンダーラップからスターアップまで）
到達目標					6	足関節テーピング実技	足関節外側靱帯損傷に対するテーピング法（ホースシューからヒールロックまで）
競技者の外傷予防の教科書を中心にスポーツテーピングの方法、実際について理解できるようにする。テーピングの効果、効用を理解し、競技や状況に応じて適切なテーピングを施すことができるようにする。					7	足関節テーピング実技	通し練習（右足）
準備学習					8	足関節テーピング実技	通し練習（左足）
テーピングの施行においては該当部位の解剖学的基礎知識の理解が必要不可欠であるため、運動器系の予習を行っていただきたい。また、授業時間外での時間で技術習得に向けて自己研鑽に努めていただきたい。					9	足関節テーピング実技	練習①
成績評価					10	足関節テーピング実技	練習②
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）					11	足関節テーピング実技	効果測定①
使用テキスト	全国柔道整復学校協会監修 競技者の外傷予防 包帯固定学 改訂第2版				12	足関節テーピング実技	効果測定②
					13	施行部位の理解	膝関節の機能解剖・触診
					14	膝関節テーピング実技	膝内側側副靱帯損傷に対するテーピング法（Xテープ）
					15	膝関節テーピング実技	膝内側側副靱帯損傷に対するテーピング法（Iテープ）
					16	テーピング実技	足関節および膝関節テーピングの練習
					17	まとめ	定期試験（足関節外側靱帯損傷に対するテーピング法）
					18	まとめ	定期試験（足関節外側靱帯損傷に対するテーピング法）
					19	テーピング実技	認定実技審査用テーピング①（足関節・膝関節）
					20	テーピング実技	認定実技審査用テーピング②（足関節・膝関節）

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

科目名		基礎柔道整復実技1
21	施行部位の理解	ROM・周径囲・四肢長の計測
22	施行部位の理解	手指部の機能解剖・触診
23	手指部のテーピング実技	ホワイトテープを用いたテーピング法
24	テープの理解	キネシオロジーテープの説明・取り扱い方法
25	施行部位の理解	肩関節部の機能解剖・触診
26	肩部のテーピング実技	腱板損傷に対するテーピング法
27	テーピング実技	認定実技審査用テーピングのおさらい（足関節・膝関節）
28	テーピング実技	認定実技審査用テーピングの練習（足関節・膝関節）
29	まとめ	定期試験（認定実技審査用テーピング）
30	まとめ	定期試験（認定実技審査用テーピング）
31	テーピング実技	足関節テーピング法の応用
32	テーピング実技	膝関節テーピング法の応用
33	施行部位の理解	下腿部・足底の機能解剖・触診
34	下腿部・足底部のテーピング実技	下腿三頭筋・足底に対するテーピング法
35	施行部位の理解	大腿部の機能解剖・触診
36	大腿部のテーピング実技	大腿四頭筋・ハムストリングスに対するテーピング法
37	テーピング実技	下腿三頭筋・足底・大腿四頭筋・ハムストリングスのテーピング練習
38	まとめ	定期試験（下腿三頭筋・足底・大腿四頭筋・ハムストリングスのテーピング）
39	まとめ	定期試験（下腿三頭筋・足底・大腿四頭筋・ハムストリングスのテーピング）
40	テーピング実技	種々のテーピング法

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	基礎柔道整復実技2			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	通年	2	演習
担当教員	佐々木祐樹、笹熊彩花			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
固定の目的を踏まえたうえで、関節固定の基礎を習得する。固定する関節の機能解剖を理解することにより効果的な包帯固定を施すことができるように図る。				
到達目標				
包帯固定学による固定の目的と意義を踏まえて、基本包帯法、冠名包帯法、部位別包帯法のほか、三角巾、固定材料の種類について理解し、施すことができるようにする。				
準備学習				
解剖学的基礎知識の理解が必要不可欠であるため、運動器系の予習を行っていただきたい。また、授業時間外での時間で技術習得に向けて自己研鑽に努めていただきたい。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	全国柔道整復協会監修 包帯固定学 改訂第2版			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	包帯の名前・列数の理解、取り扱いの基礎
2	包帯の巻き方と注意事項	固定の目的、順巻き・逆巻き・注意事項、巻軸帯の巻き戻し
3	基本包帯法の理解	基本包帯法の種類について
4	基本包帯法の実践（上肢①）	前腕（折転帯）
5	基本包帯法の実践（上肢②）	下腿（折転帯）
6	施行部位の理解	手の機能解剖
7	基本包帯法の実践（上肢③）	母指・手指（麦穂帯）
8	基本包帯法の実践（上肢④）	手指（折り返し被覆）
9	基本包帯法の実践（上肢⑤）	手関節（麦穂帯）
10	基本包帯法の実践（上肢⑥）	手関節（麦穂帯）～前腕（折転帯）
11	固定材料の理解	固定材料の種類＋三角巾
12	施行部位の理解	肘関節の機能解剖
13	基本包帯法の実践（上肢⑦）	肘関節（集合・離開 亀甲帯）
14	施行部位の理解	肩関節の機能解剖
15	基本包帯法の実践（上肢⑧）	肩関節（麦穂帯 上行・下行）
16	基本包帯法の実践（上肢⑨）	復習
17	まとめ	定期試験（前腕・肘関節・肩関節）
18	まとめ	定期試験（前腕・肘関節・肩関節）
19	厚紙を使用した固定	厚紙を使用した前腕部の固定
20	施行部位の理解	足関節の機能解剖

## 令和6年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

科目名		基礎柔道整復実技2
21	基本包帯法の実践（下肢①）	母趾（麦穂帯）
22	基本包帯法の実践（下肢②）	母趾（折り返し被覆）
23	基本包帯法の実践（下肢③）	足関節（麦穂帯）
24	基本包帯法の実践（下肢④）	足関節（麦穂帯～三角節＋亀甲帯）
25	施行部位の理解	膝関節の機能解剖
26	基本包帯法の実践（下肢⑤）	膝関節（集合・離開 亀甲帯）
27	基本包帯法の実践（下肢⑥）	復習
28	基本包帯法の実践（下肢⑦）	復習
29	まとめ	定期試験（母趾・足関節）
30	まとめ	定期試験（母趾・足関節）
31	施行部位の復習	肩関節（麦穂帯）の復習
32	冠名包帯法の理解	冠名包帯（デゾー・ヴェルポー・ジュール）
33	冠名包帯法の実践①	冠名包帯の練習
34	冠名包帯法の実践②	冠名包帯の練習
35	冠名包帯法の実践③	冠名包帯の練習
36	冠名包帯法の実践④	冠名包帯の練習
37	冠名包帯法の実践⑤	復習
38	まとめ	定期試験（デゾー・ヴェルポー・ジュール）
39	まとめ	定期試験（デゾー・ヴェルポー・ジュール）
40	巻軸包帯の特性の理解	綿包帯と弾性包帯の違いについて

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	臨床柔道整復実技1			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	通年	2	演習
担当教員	黒岩亮太			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
包帯また固定材料を応用した臨床的な固定法および、骨折・脱臼の徒手整復、腱板損傷に対する徒手検査法を実施することができるようになる。				
到達目標				
①基礎包帯固定学を基にする固定の目的と意義を踏まえて、基本包帯法、硬性材料を用いて実際の疾患を想定した固定法の選択・実践および、整復法・徒手検査法について行うことができる。 ②定期試験に合格する。				
準備学習				
基本包帯法を繰り返し練習する。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	配布資料			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	科目概要の説明・自己紹介・基本包帯法の復習
2	基本包帯法	基本包帯法の復習
3	硬性固定の種類と作成	ブライトンの取り扱いと使用方法
4	硬性固定の種類と作成	オルフィットの取り扱いと使用方法
5	肩関節前方脱臼	硬性固定の作成と巻き方
6	肩関節前方脱臼	外旋位固定の意義と装具の装着方法
7	肩関節前方脱臼	作成した固定の練習
8	上腕骨骨幹部骨折	U字シーネ作成
9	上腕骨骨幹部骨折	作成した固定を用いた練習
10	ギプス固定	キャストライトの使用方法和前腕部の巻き方
11	ギプス固定	サムスパイカの巻き方
12	ギプス固定	キャストライトを用いたギプスシーネの作成
13	第2指PIP関節背側脱臼	固定の作成方法
14	第2指PIP関節背側脱臼	技術練習
15	第2指PIP関節背側脱臼	技術練習
16	第2指PIP関節背側脱臼	定期試験に向けた練習
17	前期の復習	前期の復習
18	定期試験	定期試験
19	定期試験	定期試験
20	EXTRAsection	EXTRAsection



令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

科目名		臨床柔道整復実技1
21		病態・エコー所見と整復法（座学）
22	腓骨損傷	基礎とエコー所見（座学）
23	腓骨損傷	徒手検査法（座学）
24	腓骨損傷	徒手検査法とエコー操作
25	第5中手骨頸部骨折	アルフェンスを用いた固定
26	第5中手骨頸部骨折	アルフェンスを用いた固定
27	第5中手骨頸部骨折	ブライトンを用いた固定
28	第5中手骨頸部骨折	ブライトンを用いた固定
29	第5中手骨頸部骨折	ギプスを用いたグリップキャスト
30	前期の復習	固定練習とエコー操作
31	前期の復習	固定練習とエコー操作
32	橈骨遠位端骨折	シーネの作成
33	橈骨遠位端骨折	作成した固定の練習
34	橈骨遠位端骨折	助手を含めた固定練習
35	橈骨遠位端骨折	助手を含めた固定練習
36	橈骨遠位端骨折	上肢のギプス
37	後期の復習	後期の復習
38	定期試験	定期試験
39	定期試験	定期試験
40	EXTRAsection	EXTRAsection

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	臨床柔道整復実技2			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	通年	2	演習
担当教員	岩井一歩			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
硬性材料を用いた包帯固定と下肢に起きる外傷・疾患に対しての鑑別ができるようになる。				
到達目標				
柔道整復学・実技編による固定の目的と意義を踏まえて、様々な疾患を想定し臨床的判断と応用が出来るようになる。				
準備学習				
各試験の審査項目発表後から実技室の使用を率先していただき、練習を重ねてください。また段階的に試験が高度になっていきます。実技の復習を重ねて、絶えず自身の技術として保っていくように努力を続けてください。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・実技編 改定第2版 柔道整復学校協会 監修 柔道整復学・理論編 改定第7版			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス	1年間の大まかな流れ
2	硬性材料の使い方	ブライトンの使い方
3	硬性材料の使い方	ギプスシーネの使い方
4	足関節周囲の疾患に対する固定	硬性材料を用いた装具の作成
5	足関節周囲の疾患に対する固定	硬性材料を用いた装具を用いた固定
6	足関節周囲の疾患に対する固定	硬性材料を用いた装具を用いた固定
7	足関節周囲の疾患に対する固定	硬性材料を用いた装具を用いた固定
8	足関節周囲の疾患に対する固定	硬性材料を用いた装具を用いた固定
9	足関節周囲の触診	足関節のランドマークの触り方
10	足関節周囲の検査	足関節疾患に対する徒手検査
11	中足部から足趾の硬性材料の使い方	アルフェンスの使い方
12	中足部から足趾の硬性材料の使い方	アルフェンスの使い方
13	中足部に起きる疾患に対する固定	アルフェンスを用いた足部の固定
14	中足部に起きる疾患に対する固定	アルフェンスを用いた足部の固定
15	中足部に起きる疾患に対する固定	アルフェンスを用いた足部の固定
16	中足部に起きる疾患に対する固定	アルフェンスを用いた足部の固定
17	中足部に起きる疾患に対する固定	アルフェンスを用いた足部の固定
18	中足部に起きる疾患に対する固定	アルフェンスを用いた足部の固定
19	前期振り返り	前期の効果測定
20	前期振り返り	前期の効果測定

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

令和6年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

科目名		臨床柔道整復実技2
21	膝部に対しての硬性材料の使い方	ニールスプリントの使い方
22	膝部に対しての硬性材料の使い方	サポーターの装着方法
23	膝部に起きる疾患に対する固定	膝部の装具の作成
24	膝部に起きる疾患に対する固定	作成した装具での膝部の固定
25	膝部に起きる疾患に対する固定	作成した装具での膝部の固定
26	膝部に起きる疾患に対する固定	作成した装具での膝部の固定
27	膝部に起きる疾患に対する固定	作成した装具での膝部の固定
28	膝部に起きる疾患に対する固定	作成した装具での膝部の固定
29	膝部に起きる疾患に対する固定	作成した装具での膝部の固定
30	膝部の触診	膝部のランドマークの触り方
31	膝部の徒手検査	膝部の徒手検査
32	下腿部に対する硬性材料の使い方	クラーメル副子の使い方
33	下腿部に起きる疾患に対する固定	クラーメル副子による装具の作成
34	下腿部に起きる疾患に対する固定	作成した装具での下腿部の固定
35	下腿部に起きる疾患に対する固定	作成した装具での下腿部の固定
36	下腿部に起きる疾患に対する固定	作成した装具での下腿部の固定
37	下腿部に起きる疾患に対する固定	作成した装具での下腿部の固定
38	下腿部に起きる疾患に対する固定	作成した装具での下腿部の固定
39	後期振り返り	後期の効果測定
40	後期振り返り	後期の効果測定

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	臨床柔道整復実技3			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	通年	2	演習
担当教員	米山博之			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
1年生2年生で習得した柔道整復理論の内容を踏まえ、骨折、脱臼、軟部組織損傷などに対する、固定技術向上をめざす。模擬患者による上肢・下肢・体幹の外傷の対応法として臨床的な固定ができる。				
到達目標				
柔道整復実技編の各論の項目から模擬患者対応をOSCE形式にて行い、検査および判断・外傷評価をし、適切な固定ができるようになる。				
準備学習				
授業においては、配布資料を常に持参し、講師の実技見本動作を撮影し、配布資料の補助にすること。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	授業においては、配布資料を常に持参し、講師の実技見本動作を撮影し、配布資料の補助にすること。			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	説明	年間の授業説明
2	診察・整復 1	鎖骨定型的骨折（リング固定又は8字帯、若しくはSayerテープ固定）
3	診察・整復 2	上腕骨骨幹部骨折（ミッデルドルフ三角副子固定）
4	診察・整復 3	コーレス骨折（クラーメル副子と局所副子・三角巾固定）
5	診察・整復 4	第5 指中手骨頸部骨折（アルミ副子掌側固定）
6	診察・整復 5	下腿骨骨幹部骨折（クラーメル副子固定）
7	診察・整復 6	肋骨骨折（さらしと厚紙副子固定）
8	診察・整復 7	肩鎖関節上方脱臼（テープ固定）
9	診察・整復 8	肩関節前方脱臼（局所副子・三角巾固定）
10	診察・整復9	肘関節後方脱臼（クラーメル副子・三角巾固定）
11	診察・整復10	手第2 指PIP関節背側脱臼（アルミ副子背側固定）
12	診察・検査 1	アキレス腱断裂（クラーメル副子固定）
13	診察・検査 2	足関節外側靱帯損傷（局所副子固定）
14	診察・検査 3	復習 1
15	診察・検査 4	復習 2
16	診察・検査 5	復習 3
17	診察・検査 6	復習 4
18	診察・検査 7	膝関節内側側副靱帯損傷（Xサポートテープ固定）
19	診察・検査 8	足関節外側靱帯損傷（バスケットウィーブテープ固定）
20	診察・検査 9	足関節外側靱帯損傷（フィギアエイト・ヒールロックテープ固定）

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

授業計画		
回数	単元	内容
21	診察・検査10	実技に対する口頭試問
22	診察・整復総復習	総復習 1
23	診察・整復総復習	総復習 2
24	診察・整復総復習	総復習 3
25	診察・整復総復習	総復習 4
26	診察・整復総復習	臨床模擬実技練習 1
27	診察・整復総復習	臨床模擬実技練習 2
28	診察・整復総復習	臨床模擬実技練習 3
29	座学	整復・検査に関する問題演習1
30	座学	整復・検査に関する問題演習2
31	座学	整復・検査に関する問題演習3
32	座学	整復・検査に関する問題演習4
33	座学	整復・検査に関する問題演習5
34	座学	整復・検査に関する問題演習6
35	座学	整復・検査に関する問題演習7
36	座学	整復・検査に関する問題演習8
37	座学	整復・検査に関する問題演習9
38	座学	整復・検査に関する問題演習10
39	座学	整復・検査に関する問題演習11
40	座学	整復・検査に関する問題演習12

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	臨床柔道整復実技4			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	通年	2	演習
担当教員	米山博之			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
1年生2年生で習得した柔道整復理論の内容を踏まえ、骨折、脱臼、軟部組織損傷などに対する、触診や視診などの診察法、整復法、検査法などの修得を目指す。模擬患者による上肢・下肢・体幹の外傷の対応法として臨床的な判断ができる。特に診察法や整復法を基とした実技を行う。				
到達目標				
柔道整復理論編の各論の項目から模擬患者対応をOSCE形式にて行い、検査および判断力・外傷評価・施術法等臨床適応ができるようになる。				
準備学習				
授業においては、配布資料を常に持参し、講師の実技見本動作を撮影し、配布資料の補助にすること。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	授業においては、配布資料を常に持参し、講師の実技見本動作を撮影し、配布資料の補助にすること。			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	説明	年間の授業説明
2	診察・整復 1	鎖骨定型的骨折
3	診察・整復 2	上腕骨外科頸骨折
4	診察・整復 3	コーレス骨折
5	診察・整復 4	肩鎖関節上方脱臼
6	診察・整復 5	肩関節前方烏口下脱臼
7	診察・整復 6	肘関節後方脱臼
8	診察・整復 7	肘内障
9	診察・整復 8	復習 1
10	診察・整復9	復習 2
11	診察・整復10	復習 3
12	診察・検査 1	肩腱板損傷
13	診察・検査 2	上腕二頭筋長頭腱損傷
14	診察・検査 3	ハムストリングス損傷
15	診察・検査 4	大腿四頭筋打撲
16	診察・検査 5	膝関節側副靱帯損傷
17	診察・検査 6	膝関節十字靱帯損傷
18	診察・検査 7	膝関節半月板損傷
19	診察・検査 8	下腿三頭筋損傷
20	診察・検査 9	足外側靱帯損傷

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

授業計画		
回数	単元	内容
21	診察・検査10	実技に対する口頭試問
22	診察・整復総復習	総復習 1
23	診察・整復総復習	総復習 2
24	診察・整復総復習	総復習 3
25	診察・整復総復習	総復習 4
26	診察・整復総復習	臨床模擬実技練習 1
27	診察・整復総復習	臨床模擬実技練習 2
28	診察・整復総復習	臨床模擬実技練習 3
29	座学	整復・検査に関する問題演習1
30	座学	整復・検査に関する問題演習2
31	座学	整復・検査に関する問題演習3
32	座学	整復・検査に関する問題演習4
33	座学	整復・検査に関する問題演習5
34	座学	整復・検査に関する問題演習6
35	座学	整復・検査に関する問題演習7
36	座学	整復・検査に関する問題演習8
37	座学	整復・検査に関する問題演習9
38	座学	整復・検査に関する問題演習10
39	座学	整復・検査に関する問題演習11
40	座学	整復・検査に関する問題演習12

[illegible]

令和7年度 シラバス				
科目名	臨床柔道整復実技5			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	3年	通年	2	演習
担当教員	米山博之			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
1年生2年生で習得した柔道整復理論の内容を踏まえ、骨折、脱臼、軟部組織損傷などに対する、上肢・下肢・体幹の外傷の対応法として臨床的な判断ができる。				
到達目標				
柔道整復理論編の各論の項目において、検査および判断力・外傷評価・施術法等臨床適応ができるようになる。				
準備学習				
前回授業を常に復習する。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	配布資料			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	説明	年間の授業説明
2	臨床現場 1	筋と神経 1
3	臨床現場 2	筋と神経 2
4	臨床現場 3	外傷別 1
5	臨床現場 4	外傷別 2
6	臨床現場 5	機能と解剖 1
7	臨床現場 6	機能と解剖 2
8	臨床現場 7	機能と解剖 3
9	臨床現場 8	外傷別 3
10	臨床現場 9	外傷別 4
11	臨床現場 1 0	徒手検査法 1
12	臨床現場 1 1	徒手検査法 2
13	臨床現場 1 2	外傷別 5
14	臨床現場 1 3	外傷別 6
15	臨床現場 1 4	認定実技 1
16	臨床現場 1 5	認定実技 2
17	臨床現場 1 6	徒手検査法 1
18	臨床現場 1 7	徒手検査法 2
19	臨床現場 1 8	徒手検査法 3
20	臨床現場 1 9	徒手検査法 4



令和7年度 シラバス				
科目名	高齢者外傷予防			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期	1	講義
担当教員	鈴木 忠慶			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			
授業概要				
高齢者の転倒予防を中心に身体感と身体機能の維持・増進について理解できる。				
到達目標				
機能訓練指導法についてディスカッションを行い柔道整復師と介護保険、発達と老化の理解、機能訓練指導員と機能訓練、機能訓練で提供する運動と要点及び注意点などについて説明し、転倒・骨折・筋力維持・関節拘縮に対しての機能訓練指導が理解できるようになる。				
準備学習				
学習資料を参考に高齢者の身心について理解を深めること。自ら実演することで正しい計測法と測定結果の理解をすること。				
成績評価				
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験の点数を評点とし、評価する。				
使用テキスト	学習参考資料			

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
授業計画		
回数	単元	内容
1	ガイダンス:機能訓練指導とは	機能訓練指導とは/学習内容の説明
2	高齢者の動向	高齢者の我が国における動向の概略を理解する
3	高齢者の細胞変化	高齢者における細胞の変化について理解する
4	高齢者の運動器の変化	高齢者における運動器の力学的変化を理解する。
5	高齢者の特殊感覚器の変化	高齢者における特殊感覚の変化の理解する。
6	高齢者の循環器と運動器の変化	高齢者における循環器と運動器の関係性について理解する。
7	高齢者に多い疾患 循環器・皮膚疾患	高齢者に特に多い循環器・皮膚疾患についての症状を理解する
8	高齢者に多い疾患 睡眠・脳・意識障害	高齢者に特に多い睡眠・脳・意識障害についての症状を理解する
9	高齢者に多い疾患 心疾患	高齢者に特に多い心疾患についての症状を理解する
10	高齢者に多い疾患 悪性新生物	高齢者に特に多い悪性新生物についての症状を理解する
11	高齢者に多い疾患 生活習慣病	高齢者に特に多い生活習慣病についての症状を理解する
12	高齢者に多い疾患 その他の疾患	高齢者に想定される分類されない疾病について症状を理解する
13	高齢者に多い疾患 認知症	高齢者の認知症の症状とオレンジプランについて理解する
14	柔道整復師と機能訓練指導	柔道整復師の行う機能訓練指導について理解する。
15	介護施設と機能訓練指導	介護施設での機能訓練指導員の関わりについて理解する。
16	授業の総括	これまでの授業の振り返りと学習内容の意義について
17		
18		
19		
20		

令和7年度 シラバス

アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞

科目名	競技者外傷予防			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	2年	前期	1	講義
担当教員	佐々木祐樹			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
本授業では、理論に基づき種々の分析手法・エクササイズ・トレーニング法を実践し、様々な状況を想定したディスカッションを繰り返すことで、適切に外傷予防プログラムの立案および指導ができるようになることを目的とする。
到達目標
1、競技者の身体特性・運動特性を正確に把握することができる。 2、競技毎の特性を理解し説明することができる。 3、エクササイズ・トレーニングの目的と方法を理解し正しく実践することができる。 4、目的に応じたエクササイズ・トレーニング計画の立案および運動処方を行うことができる。
準備学習
授業で学んだことを繰り返し復習し、自らの体を使って理解できるように学習する。また、学んだエクササイズやトレーニング方法などを他者に指導し、自己学習していくことを推奨する。
成績評価
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 定期試験90%、小テスト10%の計算で評点を算出し、評価とする。（小数点以下切り捨て）

使用テキスト	アスレティックトレーニング学 アスリート支援に必要なクリニカル・エビデンス（文光堂）
--------	--

授業計画		
回数	単元	内容
1	運動生理学	エネルギー代謝、運動と骨・筋
2	スポーツ現場における救急処置法	運搬法、RICE処置、AED、CPR
3	メチカルチェック・フィジカルチェック	ROM、タイトネステスト、他の計測
4	動作の観察と分析	立位姿勢および歩行の評価
5	パフォーマンステスト	ヘキサゴンドリル、プロアジリティテスト他
6	スタティックストレッチング	全身のスタティックストレッチ法 理論と実践
7	スポーツマッサージ	滑剤を用いた大腿部・下腿部のマッサージ法
8	モビリティエクササイズ	全身のモビリティエクササイズ 理論と実践
9	部位別トレーニング	全身のレジスタンストレーニング 理論と実践
10	バランス・スタビリティトレーニング	状況に応じたバランススタビリティトレーニングの実践とメニューの立案
11	スピード・アジリティトレーニング	状況に応じたスピードトレーニングの実践とメニューの立案
12	競技特性の理解	競技毎の特性・特徴の調べ学習
13	まとめ	小テスト（競技特性について発表）
14	外傷予防法の立案	競技毎の外傷予防法の立案および指導法
15	外傷予防法の立案	競技毎の外傷予防法の立案および指導法
16	まとめ	総復習
17	まとめ	総復習
18	スポーツテーピング	スポーツ現場におけるテーピング法

令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

令和7年度 シラバス アルファ医療福祉専門学校〈柔道整復学科〉

科目名	臨床実習Ⅰ			
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
柔道整復学科	1年	前期,後期	1	実習
担当教員	中神 太一、吉成 有紗、佐々木 祐樹、岩井 一步、塩崎 由規、水村 麻輝			
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。			

授業概要
<p>接骨院に通院・見学したことが無い学生を鑑み、接骨院の業務、施術環境・技術や、柔道整復師としての心構えといったものに触れ、実務的な柔道整復師の職場環境への理解を目的とする。</p> <p>見学実習を主として、実習中は院内の雑務についても実施する。</p>
到達目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 施設の概要（態度・言葉遣い・立ち振る舞い・施術に対する姿勢）を理解する。</li> <li>2) 患者や家族とのふれ合いを通じて施術者の動向を観察し、初歩的な施術内容理解する。</li> </ol>
準備学習
<p>柔道整復学、解剖学、生理学の基礎的理解から、指導者の聞き取りについて記載に間違いが無いように事前授業をすること。特に文章表現にあたり、文法、文脈、誤字脱字について事前の学習から注意を要すること。</p>
成績評価
<p>出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。</p> <p>▼成績評価の方法</p>

使用テキスト	当校指定の学習要項
--------	-----------

[illegible]

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	臨床実習Ⅱ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	2年		1	実習	1		
担当教員	中神 太一、吉成 有紗、佐々木 祐樹、岩井 一步、塩崎 由規、水村 麻輝						
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。						
授業概要							
柔道整復師が接骨院以外の多種多様な職域に触れ、柔道整復師が内在すべき社会人としての協調性を獲得し、他業種連携に向けた柔軟な感性を獲得することを目的とする。							
到達目標							
介護福祉施設：介護施設における機能訓練指導員としての実務を理解する。							
準備学習							
実習前の事前学習において「介護施設とは」「機能訓練指導員とは」というところから理解を深めておく							
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法							
使用テキスト	当校指定の実習要項						

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	臨床実習Ⅲ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	2年		1	実習	1		
担当教員	中神 太一、吉成 有紗、佐々木 祐樹、岩井 一步、塩崎 由規、水村 麻輝						
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。						
授業概要							
認定実技試験に即した内容を踏まえ、臨床現場と教育の連携を目的とする。認定実技試験の試験内容を試技として、「試験の合格水準」が技術の到達点ではなく、「臨床現場での実例」に生じる差異についてご指導する。学生に向けて、技術の向上と柔道整復師としての今後の技術研鑽の必要性について観ずる機会とする。							
到達目標							
整復法・固定法・検査法について臨床現場としての知識・技術に即した対応を身に着けることができる。							
準備学習							
認定実技試験項目の理解についてはもちろんのこと、臨床実習を通して技術の工夫と患者への配慮、回復に努める姿勢について理解ができるよう準備をして臨むこと。							
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法							
使用テキスト	当校指定の実習要項						

令和7年度 シラバス					アルファ医療福祉専門学校＜柔道整復学科＞		
科目名	臨床実習Ⅳ				授業計画		
対象学科	配当年次	開講時期	単位数	授業形態	回数	単元	内容
柔道整復学科	3年		1	実習	1		
担当教員	中神 太一、吉成 有紗、佐々木 祐樹、岩井 一步、塩崎 由規、水村 麻輝						
実務経験	施術所等において、柔道整復師としての実務経験を有する。						
授業概要							
実患者についてのカルテを用いて、2例の臨床現場での判断・施術・治癒（症状固定）といった見極めについて学ぶ機会であり、臨床実習Ⅳの終了後には柔道整復師としての判断・行動することへの「責任感」を養うことを目的としている。							
到達目標							
「問診・視診・触診（実施した検査法含む）」、「施術の根拠」、「症状の変化についての経過観察法」、「治癒・（症状固定）についての見極め」の観点を実習指導者に実施し理解できる。この際保険点数による施術にかかわる費用算出当については含まない。							
準備学習							
数か月後にはプロとして「先生」と呼ばれる立場に立ち働くという自覚を持ち実習に臨むこと							
成績評価							
出席率は成績評価のための要件とし、評価対象には含めない。 ▼成績評価の方法							
使用テキスト	当校指定の実習要項						

	</	